

一 元禄十三年一月、十二月

(表紙)

一 元禄十三年庚辰年

万覚牒

正月朔日、十二月晦日迄

土屋次郎左衛門

組下村々高付并卯御年貢米

一 高百三拾九石貳斗六升八合

前谷村

此取九石四升六合

六分五厘

一 高六百貳拾貳石八斗三升

笹岡村

此取五拾九石壹斗五升四合

九分五厘

一 高四百七拾八石七斗三升

宮谷村

此取九拾八石壹斗七合

貳ツ五厘

一 高六百三拾貳石四斗四升

青野木村

此取九拾六石九升七合

壹ツ五分貳厘

内

三百四拾四石三斗六升九合

弥次兵衛組

此取五拾貳石三斗壹升

郷藏敷引

百七拾貳石三斗八升六合

三平組

此取貳拾六石貳斗三合

百拾五石六斗八升五合

権兵衛組

此取拾七石五斗八升四合

一 高五拾四石五斗五升

西方寺村

此取壹石六斗三升五合

三分

一 高百七拾貳石四斗壹升

清王村

此取三拾五石貳斗八升九合

貳ツ五厘

一 高貳百九拾四石六升九合

赤尾村

此取三拾石八斗六升六合

壹ツ五厘

一 高百貳拾四石五斗壹升

横垣村

此取拾貳石四斗三升五合

壹ツ

一 高七百拾八石七斗四升

井江葎村

此取百貳拾貳石壹斗四升八合

壹ツ七分

一 高三百九拾七石四斗

国影村

此取六拾壹石六斗三升五合

壹ツ七分五厘

一 高貳百三拾七石七斗壹升

牛山村

此取貳拾七石三斗壹升八合

壹ツ壹分五厘

一 高百貳拾五石八斗

城村

此取拾石六升四合

八分

一 高六石四斗九合

同新家

此取貳斗五升六合

四分

一 高百九拾九石六斗七升

西谷村

此取四石九斗八升八合

貳分五厘

一 高七百九石七斗四升八合

舟津村

此取百拾四石貳斗壹升八合

壹ツ七分五厘

一 高七百六拾九石九斗五升 十楽村

此取貳拾九石壹斗壹升四合 四分貳厘

一 高九百貳拾貳石八斗五升 田中々村

此取三拾九石九斗貳升九合 四分七厘

一 高七百拾石貳升 番田村

此取貳拾五石壹斗四升貳分<sup>(合)</sup> 四分五厘

一 高七百壹石五斗 重義村

此取貳拾五石四斗七升八合 四分五厘

高合八千拾八石六斗四合

此取八百貳石九斗壹升九合 平均壹ツ毛余

元禄十三年 庚辰年

正月朔日

同 二日

同 三日

同 四日

同 五日

一 与頭善右衛門・同平助・権右衛門并壹与庄屋壹人宛惣代ニ召連  
鯖江へ御礼ニ参候、自分義痛故権右衛門遣し申候、庄屋代ニハ前  
谷源八遣し申様ニと、年内何も庄屋中被申ニ付源八遣し申候

同 六日

同 七日

同 八日

一 何れも今日鯖江を罷歸り候、御礼首尾能相濟申由、但石田へハ不  
参候由申候

一 宗旨御改帳毎年之通相改、二月中ニ指上可申由、并一与切寄斗書  
付、別帳壹冊指上候様ニと、次ニ諸遣帳早々指上候様ニと团右衛  
門様を被仰付候

一金四兩三分此銀貳百八拾五匁遣方有、此高貳万四千六百九拾三石  
五升、但百石ニ壹匁分五厘四毛、此割銀九拾七匁四分此高八千  
四百三拾五石貳斗四升壹合舟寄組、銀九拾五匁分此高八千貳百  
三拾九石貳斗五合後山組、銀九拾貳匁五分此高八千拾八石六斗四  
合前谷組

一 城村・同新家塩浜御普請所浜之横間打立書付指上□様ニと团右衛  
門様を被仰越候二付、権右衛門城村へ遣し候得共、日次之荒ニ而  
波高候ニ付打立申事成不申候二付、波静ニ成申候ハ、打立候様ニ  
申候而罷歸り候

正月九日

同 十日

同 十一日

同 十二日

一 城村二郎右衛門・新家又左衛門參候而、于今波高候ニ付浜打立候  
事成兼申由断申ニ付、波高候而浜打立申事難成、其上右之場所海  
辺ニ候故横間附減御座候ニ付、打立候而も究不申由口上書指添候  
而、城二郎右衛門・新家四郎左衛門、团右衛門様・園右衛門様迄  
遣シ申候

覚  
本米四石九斗七升六合  
一米拾三俵

前谷村

一 銀拾四匁九分三厘  
本米三拾壹石七斗七升  
一米八拾三表

同村先割  
笹岡村

一 銀九拾五匁三分壹厘  
本米五拾貳石四斗四升  
一米百三拾七表

宮谷村

同十三日

同十四日

一 与下庄屋長百姓呼候而、火用心・盗人用心之証文取申候、并宗旨  
御改帳・諸遣帳之書出シ村々へ相渡し、仕立様段々申渡、当月中  
ニ右両通之帳面持參候様ニと申渡し候、次二年内高預ケ申者有之  
候ハ、書付出し申様ニと申渡し候

一 銀百五拾七匁三分貳厘  
本米五拾壹石六斗七升五合  
一米百三拾五表

青野木村

内  
貳拾八石壹斗三升八合  
七拾三表貳斗四合

弥次兵衛

一 番田村庄屋替り之事年内申ニ付、村中相談仕跡庄屋可立者貳三  
人も書付、長百姓持參可有候、其上ニ而御役人様へ申上御指図ニ  
任可申由申渡し候

八拾四匁四分壹厘  
拾四石八升五合  
三拾六表三斗壹升九合

三平

四拾貳匁貳分六厘  
九石四斗五升貳合  
貳拾四表貳斗七升七合

権兵衛

一 西方寺村十右衛門、細呂木太郎左衛門下米之内八斗免を置申様ニ  
噺候而算用可仕候哉と申ニ付、免之義何程置候而能候も不存事ニ  
候へハ、面々免指引能候ハ、さん用仕候様ニと申付候

貳拾八匁三分六厘  
本米七斗六升六合  
一米貳表

西方寺村

一 銀貳匁三分  
本米拾八石七斗五升六合  
一米四拾九表

清王村

同十五日

同十六日

一 銀五拾六匁貳分七厘  
本米拾六石四斗五升九合  
一米四拾三表

赤尾村

一 当春江戸御廻米之村々御割付被遣候

一 銀四拾九匁三分八厘

本米六石八斗九升  
一米拾八表

横垣村

此金式拾壹兩銀拾四匁六分四厘

一銀式拾匁六分七厘  
本米六拾五石四斗五升五合  
一米百七拾壹表

井江葭村

右之通当春江戸御廻米割如此二候、二月初津出申付候間前々之通  
あらくたけ死米無之様ニ米拵入念可申候

一銀百九拾六匁三分六厘  
本米三拾貳石九斗壹升九合  
一米八拾六表

国影村

一壹俵四斗壹升五合入俵拵之義ハ小口かゝり、去春大津廻米之通入  
念仕立可申候

一銀九拾八匁七分六厘  
本米拾四石五斗四升五合  
一米三拾八表

牛山村

一廻米中札之義、跡々江戸廻り之通入念を相認可申候  
一廻米入用先割銀本米壹石ニ付銀三匁宛取立、二月十五日を限持参  
可有候

一銀四拾三匁六分三厘  
本米貳石六斗七升九合  
一米七表

西谷村

一米納七分通去冬郷蔵へ相納候内廻米石高引之、残米壹石ニ付五拾  
九匁八分四厘之直段を以三月十五日切急度相納可被申候、以上

一銀八匁四厘  
本米六拾壹石貳斗四升四合  
一米百六拾表

舟津村

正月十四日

杉山織右衛門 印

一銀百八拾三匁七分三厘  
本米拾五石六斗九升四合  
一米四拾壹表

十楽村

前谷村組頭  
二郎左衛門殿

青山藤助 印

一銀四拾七匁八厘  
本米貳拾壹石四斗三升五合  
一米五拾六表

田中々村

此書付重而可相返候  
正月十六日

一銀六拾四匁三分  
本米拾三石三斗九升七合  
一米三拾五表

番田村

同十七日

一銀四拾匁壹分九厘  
本米拾三石七斗八升  
一米三拾六表

重義村

一重義村六兵衛上乘願狀指上候、番田・重義兩村庄屋長百姓共二願  
二候

一銀四拾壹匁三分四厘  
本石四百貳拾四石八斗八升  
合米千百拾俵

但欠米代共二

同十八日

合銀壹貫貳百七拾四匁六分四厘

同十九日

一 笹岡村称運寺、同村与三右衛門と山出入二付、称運寺書付指上候  
二 付請取申候

一 御廻米御割付之御廻状、村々判形相濟重義村へ返シ申候

同廿日

一 高九石 十楽村持主孫右衛門

内

四石 買取主同村吉兵衛、証人七兵衛

代銀百貳拾貳匁五分 寛文十年戌ノ二月朔日之証文

五石 買主右之吉兵衛、売主お長・六、証人善太郎

代銀百八拾匁、延宝元年丑十二月廿日之証文

右高主孫右衛門高売渡追付相果申候、後家持二而残高持罷有候而、  
四年過丑ノ年後家長倅六残高売候而、後家ハ中ノ浜村へ縁二付、  
倅六ハ庄介と申三国木場二家を持罷有候而、只今右之高取返シ申  
度と庄屋与三右衛門方へ断申由二候、右孫右衛門・吉兵衛・七兵  
衛三人共二兄弟、次二善太郎ハ甥也

一 十楽村与三右衛門断申候ハ、番田村二郎兵衛娘之義、去暮番田村  
久七と相談仕相濟候様ニと被仰聞候ニ付番田村へ遣し、其内少之  
合力も与右衛門仕候様ニと異見可申と申合候二付、去暮番田<sup>(村へカ)</sup>  
遣し候処、又当十六日ハ与右衛門方へ参罷有候得共可仕様無之候、  
其内自然死候か煩候ハ、何様ニ二郎兵衛可申懸も知不申候二付  
御断申候と申二付、其義二候ハ、番田村久七方へ其段相断可被申

候、近日鯖江へ参候間右之段々可申上由申聞候

一 笹岡村与三右衛門参候二付、称運寺へ山之義ニ付書付持参二候、  
下二而相濟申間敷候哉と申聞候得共、下二而相濟可申様無之由申  
二付、然上ハ書付取次指上可申と申聞候

正月廿一日

同廿二日

一年始之御礼ニ鯖江へ参候、当春足を痛候二付只今参候由申上候

同廿三日

一 笹岡村称運寺訴状織右衛門様へ指上候而申上候ハ、訴状ニハ称運  
寺持山之木柴、同村与三右衛門盗切取申由二候故与三右衛門吟味  
仕候処、五十年斗以前二与三右衛門伯母相果候二付、齋米代ニ称  
運寺へ上ケ置候得共、近年改宗仕寺をかへ其身代不罷成候二付、  
称運寺へ上ケ申事不罷成候と申上候、尤当住ハ出入望も無之様ニ  
承候得共、村之内旦那共出入為致申様ニ承及候と申上候

一 十楽村与右衛門子之うはニ番田二郎兵衛娘を去春抱置候処、去三  
月ニ右之子相果候得共、右之うはハ去年中指置候而、去極月出代  
りに御座候故いとま出し申候処、右之女去夏何やらん煩候而かミ  
ぬけ申由二而外ニ奉公不罷成候、与右衛門方ニ而煩候上ハ与右衛  
門方ニ罷有出申間敷と申二付、与右衛門めいわく仕候由ニ而去暮  
相断候二付、番田村庄や・長百姓・十楽村庄屋相談之上相濟候様

二と申候而、両村庄屋相談之上押詰ニ右之女番田へ罷歸候処、又  
当正月十六日ニ与右衛門方へ参候而罷有候、自然之事も二郎兵衛  
何様之事可申懸も難知候へハ、迷惑仕候由訴罷出候由申上候へハ、  
与右衛門方へ書付為指上候様ニと被仰付候

一笹岡村利兵衛持高之内、同村清右衛門持高之内、同村武兵衛持高  
之内、前谷村清左衛門方へ質物書入置候処、当年之作徳米ハ高主  
共方取候而、清左衛門ハ代金ニ利足加返済可仕約束之処、清左衛  
門高支配可仕由申ニ付出入ニ罷成候由申上候へハ、是非共出入ニ  
成申事ニ候ハ、書付取次申様ニと被仰聞候

同廿四日

同廿五日

一鯖江へ罷歸り候

同廿六日

同廿七日

同廿八日

同廿九日

同晦日

一番田村久七庄屋替り候て又左衛門庄屋罷立申度由、久七・又左衛  
門・弥右衛門断申ニ付、重而村中吟味之上証文を取鯖江へ可申上、  
御指図次第二可仕由申候

二月朔日

一申談御用有之、惣与頭来月四日ニ鯖江へ罷出候筈ニ候間、三人  
共二三日ニ爰元へ参着可有之候、為其如斯ニ候、以上

正月廿九日

杉山織右衛門

坂井郡与頭中

右之御廻状被遣候而請取候

覚

当年風損ニ付酒造米去年之五分一造候様ニと先達而相触候、弥右  
之通相守五分一之外造懸申間敷候者也

卯十二月

右之趣御料者御代官、私領ハ地頭へ急度申付無相違様ニ可仕候、

一応申渡候而も若相背候哉、無懈怠吟味可有候、以上

右者旧臘御触之由ニ而頃日江戸へ写者到来□<sup>(之)</sup>筈御紙上之通ニ候条、  
弥五分一之外造懸申間敷候、若未熟之仕形於有之ハ造酒屋ハ不及  
申ニ、五人組・庄屋・長百姓可為越度候、以上

正月廿三日

杉山織右衛門 印

小木友左衛門 印

右被仰渡候通奉畏候、毛頭違背仕間敷、若相背候段及御聞候ハ、  
御詮義之上何分之曲事ニも可被仰付候、已上

正月

前谷村造酒屋

清左衛門 印

同村庄や

市兵衛 印

同村長百姓  
六兵衛印

小木友左衛門殿

杉山織右衛門殿

右之通御書付被遣候二付、清左衛門并庄屋長百姓判形為致織右衛門様へ指上申候

二月三日

一自分痛有之二付権右衛門鯖江へ遣し申候

同四日

同五日

同六日

一権右衛門鯖江を罷歸り候、御用ハ当春御廻米当月中ニ仕立可申候、半過出来候ハ、御左右申上次第御役人様方御出可被成由ニ候

一納庄屋三国立合上乘之割有之候由、但納庄屋式人、三国立合五人、上乘七人御入用之処、上乘七人我等組へ相当り、重義村六兵衛六番舟ニ乗申筈ニ候

一南都大仏堂勸化金高百石ニ金壹分ツ、被仰付候、但与下<sub>レ</sub>書付取之、手前ニ有

一御口米之義与頭中不残一紙書付指上申候、但与下<sub>レ</sub>書<sup>(付カ)</sup>取之、手前ニ有

前ニ有

一仙玉奉加「」被仰付候

同七日

一庄助と申者十楽村出生之者ニ候得共、近年三国ニ住宅仕候処、十楽村吉兵衛と高出入為申出十楽村へ参、当分七兵衛と申者之方ニ罷有候由ニ而、右之七兵衛同道ニ而参書付取次申様ニと申来り候ニ付、十楽村ニ住宅ニ相極候ハ、庄屋与三右衛門召連可参候、七兵衛同道ニ而参候分ニ而ハ取次成不申候と、御法之段々申聞返シ申候

一番田村庄屋長百姓参候而、年内相極候久左衛門ニ金子かし馬引ニ遣し候相談、やふり申度と断有之二付、久左衛門ハ七人之事、何も大勢難義ニ候ハ、如何様共相談次第ニ仕候様ニと申聞候

同八日

一笹岡を清王迄之庄屋長百姓中呼寄候而、御廻米之義段々申渡、当廿日過之内ニ米高六分通米仕立申様ニと申渡し候

一右之庄助又訴状持参仕候ニ付、右村々庄屋中を聞きいたし、庄屋長百姓同道ニ而取次不申候書付、我等方へ直ニ取次候事御仕置ニ候ハ、不罷成候と段々申聞返し申候

同九日

一玄女村へ平助・善右衛門・権右衛門三人罷出、手本米仕立三升八合請取候、七ヶ村式合宛遣し可申候



同十日

同十一日

一 右手本米、笹岡・宮谷・青野木・西方寺・清王・柿原十楽村へ式合宛相渡候而、御廻米之吟味段々申渡候

一 番田村へ参候而田中々村へ願申候水留之伏樋之義相尋候へハ、伏樋立させ申事成間敷由申候

一 上段之義二付本庄大工源右衛門方へ参候

二月十二日

一 赤尾村へ下拾三ヶ村庄屋長百姓中呼寄候而、御廻米手本米式合宛相渡し申候、其外御廻米之段々申付、田中々村才兵衛所へ何れも呼寄申候

一 田中々村落江之柳之義、去年納得之上二候へハ、当春早々切取申様にと申渡し候

一 十楽村与右衛門方へ番田村二郎兵衛娘之義二付訴状指上候二付、番田村庄屋長百姓二下二而相濟不申事二候ハ、訴状取次可申候哉と尋候得ハ、何とそ下二而相濟申度候間相待候様にと申二付、先其通二いたし置候

一 三国庄助訴状指上申度由申出候へ共、庄屋与三右衛門取次不申候二付、直二ハ請取申事成不申候と申付候

同十三日

同十四日

同十五日

一 番田村四郎兵衛・門三郎参候而、年内相究候久左衛門二かし金之事、久七・弥右衛門・徳左衛門其外老兩人何角と申貸不申候二付、下へ参候事も不罷成候、我々義ハ去年相究候通金子をかし可申候、当春金子かし不申候上ハ年内申合候通何れも諸々之かし金捨可被申事之様二存候と申二付、とかく其義ハ仲ヶ間として如何様共相談被致候様にと申付候、次ニ久七長百姓之義先指置申度由申二付、其義重而村中之様子を相尋可申と申聞候

一 田中々村御ふしん所郷普請二願申度由申来り候二付、吟味之上重而取次可申上由申渡し候

同十六日

覚

一金壹両壹分

一金九両三分

一金拾六両壹分

一金八両貳分

一金四両壹分

一金貳両三分

一金貳分

前谷村

笹岡村

宮谷村

青野木本村

同村三平

同村権兵衛

西方寺村



一金六兩 清王村

一金五兩壹分 赤尾村

一金壹兩三分 横垣村

一金貳拾兩 井江葭村

一金拾兩壹分 国かけ村

一金五兩壹分 牛山村

一金三分 西谷村

一金拾八兩三分 舟津村

一金四兩三分 十楽村

一金六兩三分 田中々村

一金三兩三分 番田村

一金四兩 重義村

×百三拾兩貳分

右ハ卯御年貢米年内米納七分通之内御廻米を引取、残米之代金如

此二候故村々へ最前方申付置候二付、金高改出し二候

同十七日

同十八日

同十九日

同廿日

同廿一日

一細呂木村太郎左衛門義二付、指中村又兵衛方方書状遣し候て請取

一番田村二而庄屋長百姓二申付候ハ、何れも村之内仲ケ間悪敷様ニ

相見得候間、段々不可□□其外久左衛門事、二郎兵衛事、相濟不

申候ハ、取次可申上候間、明日我等方へ返事有之様ニと申渡し候

同廿二日

□御廻米先割銀并年内納代銀之事、村々は「一」ニ而申遣し候

二月廿三日

一牛山村茂右衛門高六石三斗持申百姓、去年夫婦共ニ因果、子吉右

衛門罷有候得共家を立罷有候事難成候二付、家を潰候而彦右衛門

家へ吉右衛門入罷有候、然共高ハ吉右衛門持分二候、家老軒つふ

れ申二付断申由二候故、家潰候而無之家二候ハ、家をへらし被

申様ニと申渡し候、重而証文取可申事二候

一米六表壹升壹合貳勺 北村辰春御廻米

一米三表六升 前谷分右同断

一十楽村与右衛門去年召仕候女之義二付当十二日ニ訴状指上候二付、

番田村庄屋長百姓二何とそ下ニ而相濟候様ニと申付候処、相濟不

申候と返事申二付相尋候へハ、右之女番田二郎兵衛方方田中々村

五兵衛方へ縁ニ付置候へハ、何様ニ仕候とても二郎兵衛構不申候

と、一昨日番田村庄屋長百姓申二付、昨日番田村二郎兵衛・田中々

村五兵衛呼寄吟味仕候処、二郎兵衛ハ右之通申二付口書を取、五

兵衛方吟味仕候処承引不仕候二付、手紙指添候而与右衛門訴状今

日鯖江織右衛門様へ指上申候

一横垣村長太夫・同村いわ出入、去年中ニ愛ニ而相濟置候処、今日  
双方証文取替シ相濟留証文取置候

一笹岡村清右衛門・利兵衛・武兵衛三人方の前谷村清左衛門方へ高  
出入之訴状指上候ニ付、清左衛門悴共誰ニ而も可參候、様子相尋  
可申と庄屋市兵衛を以兩度申遣し候得共不參候

同廿四日

一右笹岡村の指上候訴状并上乘之義ニ付、自分口上書共ニ式通手紙  
指添候而、笹岡村清右衛門ニ為持織右衛門様迄指上候

一村々へ御廻米相改ニ罷出候

一上乘重義村六兵衛親類、早々為持指越候様ニと織右衛門様の被仰  
越候

覚

一銀壹匁五分六厘 宮谷村古樋腐木代

一銀四匁五分 清王村右同断

一銀壹匁九分五厘 西谷村右同断

一銀四匁三分 十楽村右同断

一銀拾壹匁壹分 田中々村右同断

右之通拙者落札ニ御座候ハ、被仰付可被下候、御下知次第代銀指  
上古木請取可申候、以上

元禄十三年辰二月

坂井郡中筋村入札主

甚右衛門

(古郡年明・鯖江代旨)  
古郡文右衛門様

御手代中

右ハ辰年与下村々古樋御伏替被下候付、腐木入札被仰付候ニ付中  
筋村甚右衛門右之通札入申由ニ候

同廿五日

一去暮願上候御普請所、御目論見被下候ハ、御帳面写し取申度由団  
右衛門様・園右衛門様へ申上候へハ、願上候御普請所不殘御仕組  
被成帳面出来候間、一兩日之内ニ写候者遣し申様ニと右御兩人様  
被仰越候

一十楽村与右衛門訴状を持廿三日ニ鯖江参度由申候付、口上書相渡  
候処、右之女番田村親二郎兵衛者田中々村五兵衛ニ縁ニ付候へハ、  
構不申候由口書出申候故、五兵衛親左次兵衛と申者、ケ様之義ニ  
付村へ難義懸申義迷惑仕候段断申ニ付、与右衛門方へも其段庄屋  
長百姓申断候て、双方納得之上右之女左次兵衛方へ引取申候故出  
入相濟候由、田中々村庄屋・長百姓・十楽村与三右衛門・夫五兵  
衛断ニ參候ニ付、与右衛門方相尋候へハ弥相濟申由申ニ付、濟証  
文□□取可申由申渡候、織右衛門様へハ一昨廿四日ニ笹岡清右衛  
門參候節右之訳委細申上候ニ付、下ニ而相濟申由与右衛門方の御  
断申させ□□書状指添候

二月廿六日

一 笹岡村清右衛門今日鯖江に罷歸候処、自分村方へ罷出候二付御状見不申候

同廿七日

同廿八日

一 右清右衛門二被遣候織右衛門様御返事今日拝見之処、笹岡村に指上候訴状御返シ被遊、前谷清左衛門廿七八日頃二鯖江へ遣し申様ニと被仰越、其上清左衛門方へも御書付被遣候二付清左衛門方へ遣し候

同廿九日

一 前谷村清左衛門鯖江へ参候二付、織右衛門様へ御断書を以申上候ハ、清左衛門廿七八日時分ニ遣し可申之処、我等村方へ罷出候而御書付遅り拝見仕候二付、今日遣し候由申上候口上書指上候  
一 団右衛門様を御普請帳写しニ遣し候様ニと被仰下候得共、物書申者指合候二付延引仕候、朔日ニ三国へ御出被遊候ハ、御持参可被下候由口上書ニ而申上候

三月朔日

一 重義村上乘六兵衛親類書判形取候而鯖江へ六兵衛遣し申候、早々親類指上可申之処六兵衛此中加判へ参候而宿二不罷有候付、遅成申由御断口上書ニ而申上候

一 舟寄籠屋之義番人九兵衛ニとらせ申様ニ、何も相談被致候様ニと布目彦兵衛ニ最前申入候処、武兵衛・源左衛門大野郡へも相談不仕候而ハ成申間敷由彦兵衛申二付、其通ニいたし置候処舟寄善右衛門方へ又被申越候二付、昨日彦兵衛・武兵衛・源左衛門方へ書状遣し候

一 三国庄助、十楽村吉兵衛方へ参候而ふせり罷有、何角と我かま、を申候由断ニ参候付、三国地主木場町与左衛門方へ十楽村に内証ニ而断候様ニと昨日申渡し候

一 右庄助義、国ニ而ハ仁兵衛と申候由地主与左衛門ニ相断候へハ、三国へ罷歸申様ニ可申由与三右衛門ニ与左衛門申候由、与三右衛門・吉兵衛参候而相断候所へ右之仁兵衛参候而、三国を引取十楽村七兵衛方ニ可罷有由申二付、数年三国ニ住宅之者十楽村ニ住宅仕二付而ハ、段々指合有之事ニ候間、七兵衛・村中共ニ納得之上願状を指上、仁兵衛慥成者請人ニ相立御下知次第ニ可仕事ニ候、我かま、ニハ住宅難成由申聞候

一 清王村権兵衛・甚兵衛、柿原村ニ而買山有之候処、右之山へ柿原村之者共立入何之断もなく大分木を切取候由断二候、出入ニ可仕事ニ候ハ、能々相談をいたし書付指上可申候由申聞候

同二日

一 団右衛門様一昨廿九日ニ御廻米津出し為御用三国へ御出二付、自分諸事御用等ニ三国へ参候

同三日

一 当御廻米之段々被仰渡承届候

一 三国木場町仁兵衛と申者、十楽村吉兵衛と高出入有之由ニ而度々

訴訟ニ罷出候得共、仁兵衛義十楽村出生之者と申ながら、今程三

国ニ住宅仕罷有事ニ候へハ、訴訟此方へ取上ケ申事成不申候間、

三国町庄屋へ訴訟申、金津<sup>カ</sup>於御断ハ吉兵衛方<sup>カ</sup>返答為致可申候、

然上ハ仁兵衛書付此方へ直ニ請取候事難成由申渡し候、□□吉兵

衛方吟味仕<sup>(候カ)</sup>□<sup>(候カ)</sup>処慥成証文有之事ニ候へハ出入ニ可成様無之候間、

無判ニも仕候□ニと数度仁兵衛ニ申聞候へハ、右之出入止申御断

仁兵衛方<sup>カ</sup>申出候

三月四日

一 十楽村ニ而村々御廻米中札取集候而、明五日ニ国影村茂左衛門鯖

江へ持参仕、織右衛門様御印申請候様ニと申渡、則口上書・中札

共ニ右茂左衛門ニ相渡し候

覚

一人足拾五人内 七人水桶  
八人熊手

一同式拾人内 拾人水桶  
拾人熊手

一同七人内 三人水桶  
四人熊手

一同五人内 三人水桶  
貳人熊手

一同拾人内 五人水桶  
五人熊手

十楽村

田中村

番田村

重義村

西谷村

一同拾人内

五人水桶  
五人熊手

舟津村

一同貳人内

壹人水桶  
壹人熊手

牛山村

一同三人内

壹人水桶  
貳人熊手

国影村

一同五人内

三人水桶  
貳人熊手

井江葭村

一同貳人内

壹人水桶  
壹人熊手

横垣村

一同八人内

四人水桶  
四人熊手

藤沢村

一同拾人内

五人水桶  
五人熊手

宮前村

一同三人内

貳人水桶  
壹人熊手

谷畠村

右ハ御代官所去卯之御年貢米之内当辰春江戸御廻米被仰付、村々

カ三国湊へ津出し仕船積被成候内、境屋甚右衛門・塩屋市郎兵衛

・池ノ上勘左衛門・江波与三右衛門・光成武兵衛・名村安右衛門

右六人之藏へ御入置被成候ニ付、自然三国出火之節右之通人足召

連庄屋早速かけ付、御役人様方御下知次第ニ火を防可申候、右之

人数ニ心シ御焼印之木札御渡被成慥ニ請取申候、随分違者成人足

召連可申候、右之木札持不申候者壹人も御藏本へ為立寄申間敷候、

勿論見付次第かけ付申節有合申者、油断仕庄屋ニ追外申候ハ、

御吟味之上急度可被仰付候旨兼々堅可申付候、以上

元禄十三年

右村々庄屋印

右之証文団右衛門様へ指上候

同五日

一米拾六俵

かり主

牛山村庄屋長百姓

此質高式拾石、辰六月切、かし主二面喜右衛門、自分奥判い  
たし候

同六日

一清王村権兵衛・甚兵衛、柿原村之持山之木柿原村之者共理不尽二  
切取候由訴状出候二付、口上書指添織右衛門様へ指上候

一舟寄村ニ有之候籠屋之義ニ付最前<sup>ら</sup>布目彦兵衛・兵庫武兵衛・東  
長田源左衛門方へ断申聞候へハ、当日二彦兵衛方<sup>ら</sup>番人九兵衛  
ニとらせ申事、相談次第ニ仕候様ニと返事有之候、右之段々舟寄  
善右衛門へ申聞候

覚

一仁兵衛と申者十楽村出生之者ニ御座候得共、近年三国木場町ニ  
住宅仕候、親孫右衛門高九石持申候処十楽村吉兵衛ニ預ケ置候  
付、取返シ申度旨断申候得共、三国之者之訴へ此方<sup>ら</sup>取次申事  
不罷成候間、三国湊庄屋方へ訴出候様ニと仁兵衛ニ申聞、内証  
ニ而其村吉兵衛ニ右高之義相尋候へハ、孫右衛門高九石之内四  
石ハ三拾老年以前戌年永代ニ買取、五石ハ式拾八年以前丑年永  
代ニ買取申由ニ而、証文式通出し申候、然処右之仁兵衛其後度々  
訴出候ニ付、右申聞候通三<sup>(国)</sup>湊庄屋方へ訴出及出入二候ハ、  
十楽村吉兵衛ニ返答為致可申候、其上右之高ニハ慥成証文有之  
事ニ候へハ、出入ニ仕候義無用ニも「一仁兵衛ニ段々申聞  
候得ハ、納得仕当日ニ仁兵衛參、此出入仕間敷由断申来候間

其心得可有候、以上

辰三月六日

十楽村庄屋与三右衛門殿

与頭二郎左衛門 印判

右之通手紙遣し候

三月七日

同八日

一清王村権兵衛・甚兵衛鯖江へ参候へハ、訴状御取上ケ被遊府中へ  
被仰遣被下候由、則織右衛門御返事被遣候、此以後右之山へ柿原  
村之者共立入木を切候共、出入落着迄ハ清王村<sup>ら</sup>罷出口論仕間敷  
由、証文取置候様ニと被仰越候付証文取置候

一当春江戸御廻米之内ニ而千八拾四石、大津へ廻シ申様ニと江戸<sup>ら</sup>  
被仰越候由、三国ニ而団右衛門様被仰付候ニ付、御廻米納申内ニ  
而大津へ被遣可被申候、次ニ大津納庄屋之義、十楽村与右衛門被  
遣被下候様ニ願上ケ候由申上候

一村々御米中札国影村茂左衛門ニ為持鯖江へ指越候処、九日ニ織右  
衛門様御出之節御渡し可有由被仰越候由、昨日茂左衛門申来候

同九日

一織右衛門様舟寄迄御越被遊、十三日ニ此方へ御越可被遊由、夫<sup>ら</sup>  
御廻米俵拵上札俵印迄不残調置可申候、村々御廻り候て御米御吟  
味之上、中札為入可申由御書付被遣候ニ付、村々右之通申触候



同十日

一 権右衛門舟寄へ参候而織右衛門様御意得罷帰候

同十一日

一 一番田村久七・弥右衛門参候而久左衛門かし金之事申二付、先久左衛門高之田畑之義庄や長百姓として下シ作二仕、出入之義ハ重而

相濟申様ニと申手紙遣し申候

一年五十三歳尼耆人

照嚴寺母

安照院

上方本願寺参之由断二付手形指上候、当九日二下手形出し申候、手形返ル

一 宮谷村義太夫大津納庄屋ニ可被遣由、鯖江ニ而御相談之上被仰付候由織右衛門様被仰越候、右之通団右衛門様三国被仰越候

一 後山茂右衛門被参候而笹岡村清右衛門・武兵衛・利兵衛、前谷村清左衛門と高出入之義、舟寄善右衛門と愛候処、利兵衛ハ承引仕候得共清右衛門・武兵衛承引不仕候二付、是ニ而右兩人ニ異見可

仕由被申候、然共御廻米早々為致候二付先指置可申由申候

一 織右衛門様舟寄ニ被成御座候二付我等参候而申上候ハ

一 宮谷村義太夫大津納庄屋之義被仰下候へ共、義太夫事夏中大分之御取立も御座候へハ、遣し候事何共難心得候、十楽村与右衛門兼々

奉願候、義太夫ニおとり申者ニ而無御座候と申上候へハ、とかく十四日ニ其段御状被添、与右衛門を鯖江へ可被遣由被仰付候

一 村々御廻米大方出来申候、百表余不足有之由申上候へハ、其内何とそ出来申様ニと被仰付候

一 笹岡村出入之事故々申上候ハ、清左衛門火事人並之御免を請判形仕候二付、御年貢米払方無御座候へハ、後々火事人共と出入可成様ニ存候と申上候、何とそ下ニ而相濟申度と申上候

同十二日

一 義太夫大津納庄屋之義、織右衛門様へ申上候趣団右衛門様口上書を以申上候

一 井江葎・舟津御米不足之由申来り候二付、早々出来申様ニと申権右衛門遣し申候

一 宮谷村義太夫参候二付大津納庄屋被仰付候由申聞候へハ、年内被当廻米小百姓前取立之義ニ付入組たる事御座候二付、仕切算用仕

夏取立可仕之処、只今大津へ参候而ハ支申義御座候、其上奉願候御普請も近日取懸り申義ニ御座候間、外へ被仰付可被下由願申候

同十三日

〔三〕 十楽村与右衛門参候二付、宮谷義太夫願之趣口上書仕与右衛門為

持織右衛門様迄指上候、□被申上候通与右衛門被遣被下候様ニと申上候

一 大津御廻米被仰付候二付、三国被敦賀迄之御米舟上乘、坂井郡三組として拾五人程申付置候様ニと団右衛門様被御廻状被遣候、舟

寄・後山も廻り触留ニ而此方ニ御書付有

三月十四日

一当御廻米御改として織右衛門様舟寄も御越被遊候

一年四十六女老人

前谷村  
清左衛門妻

右八京都本願寺参候ニ付板取口通手形下証文指上候、明十五日之日付、此手形返り消

一十楽村与右衛門大津納庄屋鯖江ニ而被仰付罷帰候ニ付、織右衛門様迄御状参候ニ付指上上ル、(符)弥無念無之様ニと被仰付候与右衛門給金之内壹両、拙者方も相渡候様ニと被仰付候ニ付相渡、与右衛門手形取置候

同十五日

一織右衛門様今日雨天ニ候故御米改御出なく、前谷村ニ御滞留被遊候

一三国の敦賀迄之上乗御急用ニ候間、早々書付指上候様ニと团右衛門様・久野右衛門様も重而御廻状被遣候処、上乘番付之書付舟寄・後山も今日夜ニ入参候ニ付、今日ハ指上不申候

一团右衛門様も織右衛門様迄被仰遣候ハ、上乘之書付遅参候間先前谷組ニ而兩人被仰付、明晚三国へ被遣候様ニと被仰越候ニ付、前谷村源八・吉介兩人申付候由申上候

同十六日

一右上乗之書付、清間村も三国へ持参仕御兩人様へ指上候様ニと申遣候、則其便りニ織右衛門様迄被仰越候ニ付、前谷村源八・同吉助式人後刻指越可申由三国へ申上候

一江戸上乘六番重義村六兵衛、七番河上村十兵衛ニ候故、大津御廻米被遣候ニ付江戸御廻米減シ可申候、然者右之上乗不参候得ハ潰申義ニ御座候間、外組も式人参候分老人宛御減シ候而、右兩人被遣被下候様ニと織右衛門様・久野右衛門様へ申上候へハ、織右衛門様御聞届被遊、藤助様へ其段御状被遣候、則前谷村七兵衛三匁之日用ニ仕遣し候、内壹匁五分後山も可出分、壹匁五分前谷組も可出等ニ候

一笹岡・宮谷・青野木・西方寺・清王此村御米御改相濟、清王村ニ織右衛門様御泊りニ候

一前谷村源八今日も敦賀舟上乘仕候

同十七日

一織右衛門様、赤尾・横垣・井江葎・国影御米御改被遊、国影村茂左衛門方ニ御泊りニ候

一清王村権兵衛・甚兵衛柿原村も買取候山之立木、柿原村之者共何之断もなく切取申ニ付、最前鯖江へ訴申上候ニ付右之段府中被仰遣候へハ、柿原村之庄屋共牢者被仰付候由ニ而、柿原之者共之口書并大橋伊左衛門殿書状御添候而被遣候を、鯖江も御写被遊織右



衛門様迄参候二付、権兵衛・甚兵衛二様子御尋被遊、右兩人之口書御取被成鯖江へ被遣候

一重義村六兵衛上乘之義、舟数不参候ハ、御ふりかへニも成間敷由藤助様を被仰越候由、織右衛門様被仰渡候

一十楽村与右衛門鯖江迄参、明日大津参筈二候

同十八日

一織右衛門様牛山・舟津・西谷・十楽・田中々々村御米御改被遊、田中々々村才兵衛方ニ御泊り被遊候

一舟津村御米御改之処、庄屋清右衛門御米之内四表悪敷候而御はね被遊、清右衛門不届之由申訳少も無御座候、今日之内ニ御詫言申上御免被遊候

一十楽村与右衛門昨十七日ニ鯖江へ参候而、今日大津へ元右衛門様御供ニ而参候由申越候

三月十九日

一織右衛門様番田・重義御米御改相濟候、夫を三国へ御越被成候、我等舟津村はね米五表相改候而三国へ参候

同廿日

一銀式拾四匁

こはん壹面戸口村

弥左衛門あつらへ 新保森清左衛門頼取寄候

一銀壹分五厘 大坂の兵庫迄下シ賃

メ式拾四匁壹分五厘

此金壹分錢六百廿四文 兩替五拾五匁 錢六十遣

右森清左衛門書付戸口弥左衛門方へ遣し候写、此金子・錢共二出村平七ニ同廿四日ニ相渡し候

一金壹兩舟津村孫右衛門を請取手形不渡

同廿一日

一与下村々々御米三国へ出し申由断二候

覚

一米七表半 但四斗壹升五合入 舟寄組

一米拾三表 同断 前谷組

一米拾式表半 同断 後山組

右者今度大津御廻米千八拾四石之欠代米四拾八石七斗八升有之候、右欠米代組切廻米高ニ割付如此二候間、面々与之内廻米仕立有之者、右之米壹表ニ付代銀式拾八匁ニ売渡代銀取立可被指越候、於然ニハ組切ニ而右之俵数引之、残廻米三国へ津出シ可申被付候、

若自分組ニ而望無之候ハ、他組成共右之直段を以売可被申候 一大津御蔵詰被仰付候故、先達而申付候三匁銀不足二候、追割可申候得共、右欠代米払候得ハ三匁銀追割ニ及不申候

一右欠代米自他共ニ望無之候ハ、於三国各立合入札を以成共相払可被申候哉、存寄可被申聞候

辰三月十九日

青山藤助印

坂井郡三人之与頭中

右之御廻状織右衛門様御渡被遊候二付、写取後山村平助方へ三  
国<sup>〆</sup>遣し申候

一右拾三表自分組之欠代米井江葭村買取、代銀指上可申由申二付其  
通二申渡し候

一三国<sup>〆</sup>敦賀迄之上乗壹番前谷村源八、<sup>(番)</sup>貳表同村吉助、三番舟津村  
源右衛門、四番井江葭村甚右衛門、<sup>(番)</sup>五表笹岡村金右衛門と書付三  
国へ指上候

同廿二日

同廿三日

一井江葭村御廻米百七拾壹俵之内百貳俵右御改相濟、残米六拾九表  
之内拾三表右欠代米二引、五拾六表相改中札無相違入申候

同廿四日

一横田数右衛門様<sup>〆</sup>、長八殿江戸へ御引取被成候付御状被下相届候  
二付、御返事舟寄村善右衛門方迄遣し申候

一三田村六右衛門殿へ今日罷出候

同廿五日

一重義村六兵衛参、江戸上乘<sup>(拔)</sup>祓申義二候ハ、敦賀迄之上乗二而も被

仰付被下候様ニと申来候二付、尤敦賀上乘も村々へ被仰付候二付、  
願上候へハ可成事ニ候得共、今日ニも江戸廻船六艘参候へハ其方  
義江戸へ可参事ニ候へハ、卒爾ニ敦賀上乘ニも難成候二付見合申  
由申聞候

同廿六日

同廿七日

一敦賀上乘前谷村吉助今日三国へ可参由、併雨ふり候へハ御舟積不  
被成候間、天氣見合参候様ニと团右衛門様・久野右衛門様<sup>〆</sup>被仰  
越候、今日ふり申二付天氣上り次第二三国へ参候様ニと吉助ニ申  
聞候

三月廿八日

卯年御口米代銀米壹石ニ付銀六拾五匁宛

一銀三拾壹匁貳分

前谷村

此米四斗八升

一銀百七拾六匁九厘

笹岡村

此米貳石七斗九合

一銀貳百三拾七匁九分七厘

宮谷村

此米三石六斗六升壹合

一銀貳百四拾九匁八厘

青野木村

此米三石八斗三升貳合

内

百三拾五匁五分九厘

弥次兵衛

此米貳石八升六合

六拾七匁九分三厘

三平

此米壹石四升五合

四拾五匁五分六厘

權兵衛

此米七斗壹合

一銀八匁五分貳厘

西方寺村

此米壹斗三升壹合

一銀八拾五匁六分壹厘

清王村

此米壹石三斗壹升七合

一銀八拾八匁八分六厘

赤尾村

此米壹石三斗六升七合

一銀三拾六匁四分

横垣村

此米五斗六升

一銀三百八匁七分五厘

井江葭村

此米四石七斗五升

一銀百五拾八匁九分三厘

国影村

此米貳石四斗四升五合

一銀七拾六匁四分四厘

牛山村

此米壹石壹斗七升六合

一銀貳百九拾壹匁九分貳厘

舟津村

此米四石四斗九升壹合

一銀貳拾九匁壹分九厘

西谷村

此米四斗四升九合

一銀百三拾壹匁八分貳厘

十楽村

此米貳石貳升八合

一銀百六拾七匁八分三厘

田中々村

此米貳石五斗八升貳合

一銀百拾八匁貳分四厘

番田村

此米壹石八斗壹升九合

一銀百拾八匁壹分壹厘

重義村

此米壹石八斗壹升七合

銀合貳貫三百拾四匁九分六厘 内五厘寄過有

此金三拾八匁貳分 銀四匁九分六厘

此米三拾五石六斗壹升四合

三月廿九日

一 天氣能成候ニ付前谷村吉助上乘ニ三国へ参候処、又三国を吉助今日三国へ参候様ニと団右衛門様・久野右衛門様を被仰越候ニ付、先刻吉介参候由御返事申上候

一 笹岡村清右衛門と利兵衛高出入有之由ニ而、利兵衛訴状指上候、利兵衛申候ハケ様ニ訴状指上候得共、何とそ下ニ而相濟申様ニと申二付、其儀ニ候ハ、重而清右衛門申分も聞候而、庄屋長百姓と

相談可仕由申聞候

一 村々御廻米先割銀年貢金村々〆請取候

同晦日

覚

合金八拾七両也

右之御金上納ニ鯖江へ持参仕候、指上候而御手形を取相渡可申候、

以上

宮谷村義太夫(印)

外

金壹両 十楽村与右衛門大津納庄屋給銀請取手形壹枚

式口合八拾八両請取預り申候

一 井江葎村御廻米之内拾三表、大津欠米代三国へ津出し不仕代銀ニ

而指上候様ニと被仰付候ニ付、右之中札余り申ニ付織右衛門様へ

返上いたし候

一 当御普請帳御かし候て、宮谷村儀太夫ニ御写させ被下候様ニと織

右衛門様へ申上候

右之御用ニ付義太夫今日鯖江へ遣し申候、人足老入宮谷村〆召連

参候

四月朔日

同二日

一金八拾七両 右義太夫鯖江へ持参為仕候

一金壹両 十楽村与右衛門手形指上ル

〆八拾八両

内

式拾壹両銀拾四匁六分四厘 辰春御廻米入用先割金

六拾六両壹分 卯御年貢金御手形請取

残 金式分銀三分六厘 悪金ニ而返り引取

内壹分宮谷村、壹分田中々村宇右衛門

一 辰春村々〆奉願候御普請所御目論見之帳義太夫写取罷歸り候、帳

紙壹帖義太夫扣

一 当春笹岡村称運寺〆指上候訴状日付、書直させ指上候様ニと織右

衛門様〆被仰越候、但内々ニ而相濟事ニ候ハ、相濟候様ニと被仰

越候

一 七分通御年貢金之残四月中旬ニ相濟可申候、欠米拾三表代追付取

立相濟可申候、口米代□□時ニ取立指上可申候、郷藏早々立可

申候、五月中旬ニ改ニ御出可被遊由織右衛門様〆被仰越候御書付

有、則村々へ申渡し候

右之段々義太夫罷歸り候節被仰越候、御金之指引算用無相違相濟

申候

同三日

一 笹岡村称運寺ニ織右衛門様〆被仰越候趣申聞、書付相返し申候

同四日

一 清王村権兵衛と柿原村と山出入之義ニ付、柿原之庄屋兩人府中ニ而牢舎被仰付候ニ付、清王権兵衛御託言ニ罷出可申候哉と奉窺候へハ、託言罷出候事無用之由織右衛門様を被仰越候

同五日

一 柿原村庄屋出牢被仰付候由ニ而此方へ断ニ参候

同六日

同七日

同八日

同九日

一 笹岡村称運寺訴状書直シ持参申ニ付而請取置候  
一 去晦日ニ三国へ参今日罷歸り候

同十日

同十一日

一 笹岡村庄屋長百姓并清右衛門・与三右衛門呼候而、利兵衛書付指上候ニ付清右衛門ニ様子相尋申候、并称運寺を訴訟之義も何とそ  
一 暖ニ而相濟候様ニと与三右衛門・二郎太夫ニ申付候へハ、何とそ取暖申度候得共田植前ニ候へハ、其内者取懸り申事成間敷と申ニ

付、先田を植付申様ニと申聞候

一 西方寺村市郎右衛門・市郎兵衛参候付、細呂木村太郎左衛門方へ申出候出入之事、十楽五十郎ニ何とそ暖申様ニと申候而、近日五十郎暖ニ可罷出候間、其心得候而少々不足之義者承引仕候様ニと申付候

同十二日

卯年御藏前入用銀御免之村々

一 銀九拾三匁四分貳厘 笹岡村

一 銀貳拾九匁九分五厘 西谷村

一 銀百拾五匁四分九厘 十楽村

一 銀百五匁貳分三厘 重義村

一 銀百四拾四匁九厘

右之通御免許ニ付御勘定ニ除之

四月十三日

与下村々郷藏敷反歩之覚

一 貳拾四歩 前谷村

一 此高壹斗 壹反ニ付壹石四斗

一 一三拾歩 宮谷村

一 此高壹斗六升 壹反ニ付壹石六斗

一 一四拾五歩 青野木村

此高式斗式升五合 壹反二付壹石五斗

一五拾四歩 清王村

此高式斗七升 壹反二付壹石五斗

一貳拾貳歩 赤尾村

此高壹斗壹升 壹反二付壹石五斗

一三拾歩 横垣村

此高壹斗六升 壹反二付壹石六斗

一四拾貳歩 井江葭村

此高式斗式升 壹反二付壹石五斗七升

一三拾七歩 国影村

此高式斗 壹反二付壹石六斗五合

一三拾歩 牛山村

此高壹斗六升 壹反二付壹石六斗

一四拾五歩 舟津村

此高式斗式升六合 壹反二付壹石五斗

一貳拾八歩 十楽村

此高壹斗五升 壹反二付壹石六斗

一六拾歩 田中々村

此高三斗 壹反二付壹石五斗

一七拾五歩 番田村

此高三斗七升三合 壹反二付壹石五斗

一六拾六歩 重義村

此高三斗式升 壹反二付壹石四斗六升

右之村々古検地帳石代を以歩詰仕、郷蔵敷地如此二御座候

一三拾歩 笹岡村

此高壹斗六升 壹反二付壹石六斗

一拾貳歩 西方寺村

此高五升

一三拾歩 西谷村

此高壹斗六升 壹反二付壹石六斗

右三ヶ村古検地帳紛失仕候付近村二准郷蔵敷如此二御座候

\* (付紙) 覚

一銀拾九匁五分 笹岡村

一銀拾五匁八分 宮谷村

一銀四拾五匁七分 舟津村

一銀九匁八分 清王村

一銀拾八匁 西谷村

一銀四拾壹匁 十楽村

一銀五拾八匁式分 田中々村

一銀拾八匁八分 番田村

一銀七拾三匁六分 重義村

一銀三拾七匁七分 新家 城村

内廿五匁三分四厘城村

同十四日

一重義村庄屋長百姓参候而、白山田永荒之義御訴訟申上度由申来り候

右之金子儘ニ預り申候、鯖江へ持参上納いたし御手形ニ而可相渡候、以上

城村庄屋二郎右衛門(印)

同十五日

一黒毛三歳馬壹疋 髮切

青野木村馬主

安右衛門

細呂木口通手形出し申候

一照嚴寺安照院様上京手形返り申二付消

一城村・同新家を去年奉願候塩浜御普請所不残所仕立候得共、当年雨天故塩焼申事不罷成、依之百姓夫食・作食ニ難義仕候間、御普請扶持之内少ニ而も御貸可被下候由訴訟申二付、其段織右衛門様書状指添候而庄屋次郎右衛門鯖江へ遣し申候

一番田村長二郎方へ上番村二郎兵衛と申者当辰年壹季奉公ニ抱候而、

一村々郷藏敷地之書付并郷藏立候義、来ル七月中迄指延被下候様ニと村々を願二付其通申上候

給銀貳拾七匁相渡申候処、右之二郎兵衛相煩候而奉公不仕候二付、

一石田方村々請酒之義御法度ニ被仰付候、後山平助共相談仕候処、

下ニ而色々申断、其上庄屋七兵衛方へも断候へ共埒明不申候由訴

当御支配下も御法度被仰付被下候様ニと申上候

出候付、番田村庄屋又左衛門方を庄屋七兵衛方へ使を遣し候て、

一笹岡村称運寺書状御返シ請取申候、村中として何とぞ扱申度と申

其返事次第二而与頭五左衛門方へ可申遣し候由申聞候

二付、其通ニ仕置候と申上候

〔二〕御普請所有之村々庄屋中呼寄候而御普請仕方申渡し候

一右御金指上候由申上候

四月十六日

同十八日

同十七日

一前谷村清左衛門妻上方参候手形返り消

覚

一金三拾九兩銀四匁 此金子指引相済

同十九日

内

一黒毛三歳馬壹疋 髮切 重義村 十右衛門(印)

六兩銀四匁 欠米拾三表代ニ上ル

板取口通手形出ス、明廿日之日付

三拾三兩

卯御年貢金ニ可上分

一金六兩銀四匁

欠米拾三表代 藤助様手形



一金三拾三兩 卯御年貢金 藤助様手形

一城村御普請人足扶持代金、吟味之上可相渡由織右衛門様御書付被遣候

一郷蔵敷書付指上候処御請取被成候由、郷蔵立申義早々立させ可申候、実々ニ立兼申村者益後迄指延可申候

一請酒之義御相談之上重而可被仰越由

一称運寺出入之事、下ニ而相濟候へハ一段之事と被仰越候

右之通昨十八日ニ城村二郎右衛門罷歸候由ニ而、御手形・御書付請取申候

同廿日

一田中々村御普請所大方仕立申義見届候

同廿一日

一金式両城村二郎右衛門、新家又左衛門ニ普請人足扶持之内相渡手形請取

一城村御普請扶持之内御渡被下候様ニとの願之趣、团右衛門様へ可申上候処鯖江へ三国御歸り被成候ニ付、新家之人足ニ而团右衛門様へ以書状申上候

同廿二日

一昨日团右衛門様へ遣し候使罷歸、御返事請取

同廿三日

同廿四日

一舟津村御普請所入用之竹木代銀ニ而、木屋方舟津村へ請取、村ニ而竹木枝等出シ候而普請仕度由申ニ付、村竹木出シ候へハ御帳悪敷候間、少ニ而も御帳面ニ違候へハ、重而御改之上仕かへさせ申事ニ候間、為其証文指上可申由申渡し候、依之木屋方へ若御窺相濟不申候ハ、右之代銀返濟□致可申由手紙遣し申候

四月廿五日

同廿六日

同廿七日

一三国今日罷歸り候

同廿八日

同廿九日

一舟寄村置土普請之義ニ付十郷村々加入申出候、依之团右衛門様御越被成候ニ付、被仰聞御用有之候間後山茂右衛門同道ニ而三国迄参候様ニと、友左衛門様御配符被遣候ニ付、後山へ柵村遣し申候村次ニ而此方へ被遣候

五月朔日

一 栗毛三才馬老正  
一 星足毛三才馬老正

青野木村  
甚右衛門  
同人

二 ツ屋口通り手形指上候

一 舟寄村十郷出入之義ニ付三国迄参候へハ、後山茂右衛門・大牧豊左衛門三人立合相談之上、其趣小木友左衛門様・川崎庄左衛門様へ御内意申上、右御兩人様御相談之上井組村々々與頭衆可申談之由ニ而相談仕候、其節相極候段々ハ、豊左衛門・茂右衛門・自分三人方々此度噯之次第を覚書ニ判形仕、下番村大連方渡置可申由

覚

一 十郷横落堤之向往還道端舟寄村分ニ置縁有之、其置縁切所并上置普請舟寄村々致懸候処、堤之障りニ成候由十郷村々々構出入ニ取結候ニ付我々罷出、堤ニ障りニ罷成様ニ重而置土不仕筈ニ双方納得之上扱相済申候

一 十郷用水洪水之節、水多込入候ニ付、往還も水乘且又堤も危候、依之新明・二ツ屋・さら江此三ヶ所ニ水門を伏、洪水之節も常水ニ取候得ハ堤も危無之、往還も水乗り不申、惣而井下村々為ニも能候ニ付此水門願可申候、被仰付候へハ舟寄村地内往還道へも水乗り申間敷候、左候へハ水除ニも不及候故我々取扱相済申候、以上

元禄十三年辰五月

宗石茂右衛門

土屋二郎左衛門

木下豊左衛門

大連三郎左衛門殿  
同二郎兵衛殿

右之通豊左衛門・布目彦兵衛ニ内談いたし、当六日二十郷村々支配與頭中不残大連方へ参会之上、重而返事可申由退去いたし候

同二日  
同三日  
同四日

一 一団右衛門様十楽・田中々村・番田村・重義村川除普請仕形御指図ニ御出被成、村々庄屋中ニ委細被仰付候由、但昨三日之夜四日ニ御出之由村々へ申遣し候ニ付、馬二郎兵衛外老人日用銀式匆やとひ候而遣し申候

同五日  
同六日  
同七日

一 大牧豊左衛門、布目彦兵衛と参会仕候へハ、昨六日二十郷支配與頭中と右扱之段々対談仕候へハ、面々御地頭方其外村々へも申談、当十日二面々意趣可申合由ニ而退出之由被申聞候

同八日  
同九日

一金貳兩 預り手形渡 舟寄孫右衛門の入

一金貳兩 手形不渡 同村清右衛門の入

右之通□□□候

一大津御廻米欠代米之指引御書付被遣<sup>(候カ)</sup>、権右衛門代判仕鯖江へ指上候、尤留有

同十日

五月十一日

同十二日

一豊左衛門、彦兵衛方の右扱之義ニ付相談之事有之由候間、三国迄参候様ニと友左衛門様の被仰越候ニ付、三国へ参候へハ彦兵衛申候ハ、右三ヶ所之水門願之義、河合春近井組村々の構有之由、大<sup>(天)</sup>宮彦右衛門様御物語候由両金津庄屋共申候、然ハ此水門願叶申間敷候、然上ハ右水門之願を指置、舟寄村置土之義斗右扱之通仕度<sup>(事カ)</sup>との□二候得共、舟寄村承引不仕候ニ付此扱破申候

同十三日

同十四日

同十五日

同十六日

同十七日

同十八日

同十九日

同廿日

同廿一日

一三国の帰り候

同廿二日

一当月十五日・十六日水出候而田畑へ水入候之処、又同十九日の大水出候而未水引不申候得共、田畑へ水入候得共于今引不申候ニ付、立毛之痛之様子見届不申候得共水入申段々、三人連判之口上書舟寄の鯖江遣し候へハ、久野右衛門様御返状被遣候、指上候口上書之留ハ平助方ニ有

一口上書令披見候、然者当月十八日之大雨ニ而同十九日の廿一日迄段々致満水、田畑作毛へ水つき申旨令承知候、作毛損候分追付帳面仕立可被指出之由尤二候、杉山織右衛門義今立郡へ水押見分ニ被参候、帰宅次第口上書可入一覽候、以上

五月廿三日<sup>(マ、)</sup>

斎藤久野右衛門

舟寄村善右衛門殿

前谷村二郎左衛門殿

後山村平助殿

右之御返事舟寄村の村次ニ参候ニ付後山村へ遣し申候

同廿三日

同廿四日

一 清王村市三郎・市右衛門・彦四郎三人出合、青野木分之田壹反、  
十楽村作兵衛二米式石二壹斗六升六合之下米之内壹石三斗去卯暮  
請取候而、残而八斗六升六合、当辰三月中ニ相済可申由証文為致  
置候得共、于今相済不申候由右之三人断ニ参候ニ付、十楽村五十  
郎方へ手紙遣し申候

同廿五日

一人足千七百七人 城村・同新家塩浜御普請  
此ふち米八石五斗三升五合

此代五百拾匁七分三厘

此浜間四町拾六間

但拾間ニ付拾九匁九分五厘ツ、

内

三百四拾三匁分五厘

城村分

此浜間貳町五拾貳間

百六拾七匁五分八厘

新家分

此浜間壹町貳拾四間

右指引之覚

一 銀三百四拾三匁分五厘

城村

内 九拾匁

四月廿一日ニ渡ス

貳拾五匁三分四厘

引かへ銀二次

貳百貳拾七匁八分壹厘 五月三日ニ渡

一 銀百六拾七匁五分八厘

新家分

内 三拾匁

四月廿一日ニ渡

拾貳匁三分七厘

引かへ銀二次

三拾匁五分五厘

御年貢不足ニ入

九拾四匁六分六厘

五月三日ニ渡ス

右之通指引算用仕手形請取

五月廿六日

辰春御廻米之内大津御廻米之覚

一米一石四斗貳升

前谷村

一米九石六升三合

笹岡村

一米拾四石九斗五升九合

宮谷村

一米拾四石七斗四升壹合

青野木村

一米□斗壹升九合

西方寺村

一米五石三斗五升

清王村

一米四石六斗九升五合

赤尾村

一米壹石九斗六升五合

横垣村

一米拾八石六斗七升貳合

井江葭村

一米九石三斗九升壹合

国影村

一米四石壹斗四升九合

牛山村

一米七斗六升四合 西谷村

一米拾七石四斗七升 舟津村

一米四石四斗七升七合 十楽村

一米六石壹斗壹升四合 田中々村

一米三石八斗貳升貳合 番田村

一米三石九斗三升壹合 重義村

米合百貳拾壹石貳斗貳合

一村々田畑水入帳持参候ニ付請取置

同廿七日

一右水入之帳面、重義・番田・田中々村・十楽・舟津・国影・青野  
木・宮谷、右八ヶ村之帳面其外御用之義共有之二付、前谷源八を  
鯖江へ遣し申候

同廿八日

一重義村十右衛門を金貳分取候而大工源右衛門方へ遣し、但番田村  
を為持遣し申候

一去卯御年貢残金・御口米代金壹石ニ付銀六拾五匁ツ、ニ取立可申  
候哉、奈良大仏勸化銀当夏壹所ニ取立可申候哉と御窺申上候へハ、  
織右衛門様御返事ニハ、御未進金・御口米代金・勸化銀共ニ当十  
五日切ニ不残取立候様ニと被仰遣候、并与頭中へ御廻状被遣候ニ  
付平介方へ遣し申候、源八今日罷歸り候

同廿九日

六月朔日

一当四日お鯖江ニ而大割可仕候間、三日お鯖江へ参候様ニと新庄平  
左衛門方を手紙遣し申候

一舟寄村十郷出入之義、又噯ニ仕候様ニとの御事ニ而団右衛門様・  
平左衛門様三国迄御越被成候ニ付、右噯人不残御呼被成候

同二日

同三日

一権右衛門并宮谷義太夫鯖江へ遣し申候  
一国影村子・丑兩年之御免状ニ違有之二付、御書直シ候而江戸高嶋  
太次兵衛殿を被遣候由ニ而、織右衛門様を御渡し被成候ニ付請取  
申候

同四日

同五日

同六日

同七日

同八日

同九日

同十日

一 権右衛門・宮谷村義太夫鯖江大割ニ参候而、三日ハ今日迄罷有罷  
歸り候、此度之盛宿彦五郎可仕之処、御役人様方思召も有之由ニ  
候故、何れも相談之上伝兵衛方ニ而盛仕候由

六月十一日

一 十郷村々と舟寄村出入之義噺ニ而相濟申様ニとの御事ニ付、团右  
衛門様・藤左衛門様三国迄御越、十郷支配之与頭中・舟寄村善右  
衛門・同庄屋長百姓・後山茂右衛門・大牧豊左衛門・自分共ニ当  
朔日ハ罷出、右御兩人様御相談ニ而扱人茂右衛門・豊左衛門・二  
郎左衛門三人方ハ此度扱之次第覚書ニ印形仕、大連三郎左衛門・  
同二郎兵衛方へ相渡申筈ニ付、其通文談ニ而舟寄村ハ覚書扱人方  
へ取申筈ニ付、其文言之義ニ付色々入組申義有之ニ付漸々文言極、  
当春舟寄村ハ置土之義堤之障りニ成不申候様、扱人共了簡仕候様  
ニと右御兩人様被仰付候ニ付、茂右衛門・二郎左衛門申候段々ハ、  
出水之義ニ候へハ何程とハ申かたく候得共、当五月廿日之近年之  
洪水ニ有之処、指而堤之障りニも不成様ニ相見得候へハ、当春之  
置土半分とり候而相濟候様ニと申候得共、十郷ハ置土不残取所々  
切江ニハ下土少々置申様ニと申ニ付、扱相濟不申退出いたし候

同十二日

同十三日

同十四日

同十五日

一 御廻米舟今日三国ハ出船之由

同十六日

一 卯御年貢金、当五日・同十五日兩度之請合金、今日村々ハ請取申  
候

一 重義・番田・田中々村・十楽此四ヶ村、先日洪水ニ而田畑立毛痛  
候而録々生出不申候処、当四五日頃ハ用水無之修理も不罷成候由  
訴出候

同十七日

一番田村久七長百姓之義、押申度由又左衛門・弥右衛門〔断力〕申ニ候

同十八日

同十九日

一 黒毛四歳馬〔断力〕 髮切  
西方寺村 市郎右衛門

二 ツ屋口通り手形出し申候

六月廿一日之日付ニ而出し申候

同廿日

一 与下村々庄屋長百姓寄合夏盛仕相濟候、卯御年貢金取立勘定之書  
付村々渡候

入 一金百八拾六兩三分銀四匁九分六厘

同廿一日

内

入 三拾八兩式分銀四匁九分六厘 口米代銀

入 百四拾八兩壹分 卯御年貢金

内三兩悪金ニ而返ル

右之御金儲ニ請取申候、御陣屋へ持参仕候而指上御手形を以相渡

し可申候、以上

六月廿一日

源八郎(印)

外

一銀八匁三分 福居ニ而かい物代預り申候

一大津御廻米欠米代村々へ請取候との証文、并十楽・田中々村・番

田・重義此四ヶ村田畑共ニ日損仕候との書付壹通、源八ニ為持指

上候

同廿二日

一金百四拾五兩壹分 卯御年貢藤助様御手形

一金三拾八兩式分銀四匁九分壹厘 卯御口米代御同人様手形

一金三兩 笹岡・宮谷・番田悪金ニ而返ル

一金六兩壹分銀六匁七分八厘 大津御廻米之欠米代

右証文指上候ニ付藤助様を金御渡し被成候

一右四ヶ村日損願状御請取被成候由、其外段々織右衛門様を御返事

被遣候

一源八郎鯖江を罷歸候ニ付指引さん用仕、無相違御手形共請取申候

同廿三日

一舟寄村出入之場所置土口御見分、藤助様御同道ニ而織右衛門様御

越被遊候、就夫御取立之為被仰渡之、明日此方へ御越可被遊候哉、

拙者返事次第ニ可被遊由被仰下候ニ付、此方へ不及御越来五日切

ニハ取切可申由申上候、権右衛門を遣し与下村々へ御はいふ被遣

被下候様ニと申上候

六月廿四日

一右之通織右衛門様を与下村々へ御廻状被遣候付、添書いたし村々

へ遣し申候

卯年御普請所村々御扶持米書出し

一人足百式拾六人 笹岡村

此米六斗三升

此銀三拾七匁七分

一人足式百七拾四人 宮谷村

此米壹石三斗七升

此銀八拾壹匁九分八厘

一人足七百拾人 舟津村

此米三石五斗五升



此銀貳百拾貳匁四分三厘

一人足百三拾四人半

此米六斗七升貳合五勺

此銀四拾匁貳分四厘

一人足貳百五拾人半

此米壹石貳斗五升貳合五勺

此銀七拾四匁九分五厘

一人足四百七拾貳人

此米貳石三斗六升

此銀百四拾壹匁貳分三厘

一人足九人

此米四升五合

此銀貳匁六分九厘

一人足千七百七人

此米八石五斗三升五合

此銀五百八拾匁七分三厘

人足合三千六百八拾三人

此米拾八石四斗壹升五合

此銀壹貫百壹匁九分五厘

此金拾八兩壹分六匁九分五厘

六月廿五日

西谷村

一銀四匁四分八厘

一金壹分銀拾三匁五分六厘

一金三分銀貳匁壹分壹厘

一金壹分銀拾匁貳分八厘

一銀拾貳匁六分四厘

一銀八匁四分九厘

一銀七分

一金壹分銀壹匁八分七厘

一銀拾四匁七分七厘

一銀六匁壹分六厘

一金三分銀拾三匁八分

一金壹分銀拾四匁六分壹厘

一銀拾三匁九厘

一銀貳匁三分八厘

一金三分拾匁貳厘

一銀拾四匁壹分四厘

一金壹分銀四匁貳分五厘

一銀拾貳匁四厘

一銀拾貳匁三分九厘

合金六兩壹分銀六匁七分八厘

辰春大津御廻米欠米代銀之仕出し

前谷村

笹岡村

宮谷村

青野木弥二兵衛

同村五十郎

同村權兵衛

西方寺村

清王村

赤尾村

横垣村

井江葎村

国影村

牛山村

西谷村

舟津村

十楽村

田中々村

番田村

重義村

同廿六日

同廿七日

同廿八日

同廿九日

同晦日

七月朔日

一金拾七兩貳分

田中々村才兵衛

内

壹兩四匁三分

辰春三匁銀

壹兩貳分拾匁八分三厘

御口米代

拾壹匁壹分

古樋代

壹兩三分拾三匁八分六厘

大割・内割・与割・与頭給四口之当

拾六兩貳分八匁貳分七厘

卯御年貢残当

壹兩壹分八匁貳分三厘

大仏奉加銀

ノ貳拾貳兩三分拾壹匁五分九厘

内五兩壹分拾壹匁五分九厘

不足金

外四匁九分九厘

卯残金包ちん

\* 一金四兩壹分

同村宇右衛門

内

壹兩七匁

御口米代

三分拾三匁貳分

ふしんわり

壹兩三分貳匁四分四厘

大わり・内わり・与割・与頭給四口当

拾貳兩拾三匁九分三厘

御年貢金残

三分拾匁貳分

大仏奉加銀

ノ拾七兩壹匁七分七厘

内拾貳兩壹分壹匁七分七厘 不足金

一金五兩壹分拾壹匁五分九厘 右才兵衛不足

一銀四匁九分九厘 同人包ちん

ノ五兩貳分壹匁五分八厘

内

壹分壹匁

才兵衛引かへ銀

貳兩銀四分三厘

御ふしんふち

残 三兩壹分壹分五厘

辰七月一日入済

一金拾貳兩壹分銀壹匁七分七厘

右宇右衛門不足

銀三匁六分七厘

同人□賃銀(包九)

ノ拾貳兩壹分五匁四分四厘

残 内四兩 七月朔日二入

八兩壹分五匁四分四厘 不足

\* (付紙) 田中々村才兵衛算用

一金四拾貳兩八匁貳分七厘

卯惣御年貢

内式拾五兩貳分 年内入

外 残金拾六兩貳分八匁貳分七厘

金壹兩四匁三分

辰春三匁銀

金壹兩貳分拾匁八分三厘

御口米代

銀拾壹匁壹分

古樋代

金壹兩三分拾三匁八分六厘 割銀与頭給

金壹兩壹分八匁貳分三厘 大仏奉加

銀四匁九分九厘 包ちん

×貳拾三兩壹匁五分八厘

内

壹分壹匁 盛銀之内才兵衛扣

貳兩四分三厘 御ふしんふち

拾七兩貳分 六月廿日迄入

三兩壹分壹分五厘 七月朔日入

×貳拾三兩壹匁五分八厘

一金貳拾五兩銀九匁五分三厘 笹岡村

一銀拾四匁三分貳厘 同村包賃

一銀貳百九拾匁四分三厘 惣わり銀

×三拾兩銀拾四匁貳分八厘

内拾貳兩 七月朔日二入

残 拾八兩銀拾四匁貳分八厘 不足金

覚

一坂井郡西田村市兵衛悻太郎と申者今年廿一歳ニ罷成候、親ハ廿年以前ニ相果候、其後同村市左衛門後家入ニ參候、此市左衛門も三年以前相果、只今母壹人有之江戸ニ而奉公可仕と存、五月廿九日在所を罷出六月十四日ニ江戸下着仕候、日本橋ニ而水野

小左衛門様へ被召捕候、右宿なし去月十六日御何様方御手紙

被遣候由、此方御代官所ニ西田村と申ハ無之由御請被仰上候由

一右西田村近所たけ村・覚善村・加戸村有之、庄屋ハ五郎右衛門

・太兵衛と申候由、右之太郎申由ニ候へハ、西谷村之義ニ而可

有之候間吟味仕、明二日舟寄村迄西谷村之者召連參候様ニと藤

介様被仰越候二付、権右衛門西谷村へ遣し吟味仕、西谷村之

者召連參候

一中野元右衛門様十楽村与右衛門ニ大津御廻米之義ニ付御用候

間、二日・三日両日之内ニ鯖江へ參候様ニと被仰越候二付、則

申遣し候

一明二日石田・紀州様方・丸岡御役人中舟寄へ御出被成、十郷と

出入之場所御見分ニ候、鯖江に藤介様・团右衛門様・織右衛門

様御出被成候由、則善右衛門方被申越候、今夜九ツ二時分ニ

舟寄右之御状共持參仕候二付、夫西谷村へ遣し吟味いたし

候

同二日

一舟寄村往還道端土手ニ当春置土普請仕候付、十郷堤之障りニ罷成

候由ニ而舟寄村と十郷村々と出入ニ罷成候二付、最前ニ後山茂右

衛門・大牧豊左衛門・自分三人罷出扱候得共相濟不申候二付、今

日鯖江に青山藤助殿・  織右衛門殿・渡辺团右衛門殿・石田  

木三左衛門殿・川崎庄左衛門殿・紀州御役人成瀬軍蔵殿・丸岡御

役人堀彦之丞殿、其外十郷支配御料・御私領之与頭中罷出、右之  
置土御見分之上右七人御相談之上、置土・腹付共ニ取捨可申分御  
指図被成候而出入ハ相濟申ニ付、後山与ハ人足五人、前谷与ハ五  
人、大牧与ハ五人、西長田与ハ五人、吉政与ハ五人、都合式拾五  
人之人足茂右衛門・二郎左衛門・豊左衛門・太兵衛・武兵衛召連  
罷出、置土・腹付共ニ御指図之通取捨申等ニ相究候

七月三日

一舟寄方ハ大工長崎村十兵衛、十郷方ハ大工東長田村太兵衛召連、  
右之人足ニ而置土取捨候而右百六拾間之普請所ニ而三ヶ所、田之  
地形ハ土手之上迄尺寸相究候事

一 地蔵腰ニ而三尺五寸式分

角之田道端壹間敷  
田之地形ハ土手之上迄

一 堤番小屋当向ニ而四尺三寸八分

右同断

一 若宮村地境ニ而五尺

右同断

右之通水を盛往還道・土手共ニ之高サ相極候

右五人仮証文取替し相濟申候

一 右五人我等与ハ出人足後山与ハ出し被申ニ付、重而指引可申由申  
合候

一 西谷村太郎母舟寄村へ被召寄、織右衛門様御吟味ニ而口書御取被  
成候而罷歸り候

同五日

舟津村卯御年貢万盛銀之指引

一金九拾三兩三分銀壹匁五分六厘 御年貢金

一金三兩銀三匁七分三厘 三匁銀

一金壹兩三分銀壹匁四分六厘 大仏奉加

一金四兩三分銀六匁九分式厘 御口米代

一金三兩三分銀五匁六分九厘 万盛銀・与頭半給取かへ銀共ニ

ノ百七兩壹分銀四匁三分六厘

内

式拾兩 卯暮孫右衛門入金

八兩 右同断

八兩 辰三月廿九日 孫右衛門入

四兩三分 同四月十五日 同人

式兩 同五月九日 同人

拾式兩 同六月十六日 同人

四兩式分 同六月廿一日 同人

六兩壹分 同七月五日 同人

式兩 同日盛銀ニ入 同人

式兩式分 同日 同人

小以七拾兩

拾三兩 卯暮清右衛門入

式兩 辰三月廿九日 同人入

壹兩壹分 同四月十五日 同人入

貳兩 同五月九日 同人入

五兩壹分半切 同六月十八日 同人入

六兩貳分 同七月五日 同人入

小以三拾兩半切

式口合百兩半切

金七兩銀拾壹匁八分六厘 不足金

外 金壹分銀八分三厘 包ちん銀不足

ノ七兩壹分銀拾貳匁六分九厘

内三兩貳分銀貳匁四分三厘 人足ふち代

銀貳分六厘 錢二而入

残三兩三分銀拾匁 不足預り金

右之指引

一金七拾兩 孫右衛門惣上納金

一金三拾兩半切貳分六厘 清右衛門惣上納金

一金三兩三分銀拾匁 右兩人預り金

合金百四兩銀貳匁七分六厘

内

三兩銀三匁七分三厘 三匁銀

四兩三分六匁九分貳厘 御口米代

小以七兩三分拾匁六分五厘

此銀四百七拾五匁六分五厘

内

□兩貳分貳匁三分壹厘 清右衛門入金引

五兩壹分八匁三分四厘 孫右衛門入金引

貳兩 万盛銀孫右衛門入金之内引

拾匁八分三厘 包ちん銀孫右衛門入金之内引

壹兩三分五匁六分九厘 万盛銀清右衛門金引

五匁 包ちん清右衛門入金之内引

ノ七兩貳分四匁壹分七厘 孫右衛門入金引

ノ四兩壹分拾三匁 清右衛門入金引

残六拾貳兩壹分拾匁八分三厘 孫右衛門に手形渡

内貳拾八兩 年内入通二付

残貳拾五兩貳分九匁七分六厘 清右衛門に手形渡

内拾三兩 年内入通二付

残三兩三分拾匁 右兩人に手形渡

ノ

七月六日

卯御年貢金万指引勘定

一金八百四拾八兩銀拾三匁四分六厘 御年貢金

内

四百拾六兩壹分 年内上納金

四兩貳分銀八匁四分三厘 酒運上銀

残  
金四百貳拾七兩壹分銀五匁三厘

外  
金貳拾兩銀貳匁七分九厘 南都勸化

金壹分銀八匁三分壹厘 古樋代

合金四百四拾七兩三分銀壹匁叁分三厘

内

六拾六兩壹分 辰三月晦日上納

三拾三兩 同四月十七日上納

百四拾五兩壹分 同六月廿一日上納

拾八兩三分銀六匁五分七厘 御普請扶持代

貳拾兩 御貸金

百六拾四兩壹分銀九匁五分六厘

三口ノ貳百三兩壹分銀壹匁叁分三厘

ノ 大割銀

一金六兩三分拾貳匁六分

此銀四百拾七匁六分

一金貳兩三分拾四匁壹分四厘 内割銀

此銀百七拾九匁壹分四厘

貳口ノ九兩三分拾壹匁七分四厘

此銀五百九拾六匁七分四厘

一金三分銀九匁叁分九厘 彦五郎

此銀五拾四匁叁分九厘

一金貳分銀六匁貳分六厘 富札代

此銀三拾六匁叁分六厘

一金三兩

一金四兩貳分

一金貳兩銀八匁三分貳厘

ノ百八拾五兩貳分壹分七厘

右ハ鯖江へ参候ニ付指引覚書

一金五兩貳分

かり主

青野木村

庄や長百姓

貸主十楽村庄兵衛

此質高三拾石、十一月切利壹わり、自分奥判いたし候

覚

一金貳兩銀五匁五分五厘

舟寄組

一金三兩貳分銀貳匁四分四厘

前谷組

一金三兩銀拾壹匁五分八厘

後山組

右ハ当辰春江戸大津廻米諸入用、先達而御米壹石ニ付銀壹匁宛取

立相払候処、不足ニ付御米壹石ニ付銀五分ツ、追割申遣候間、早々

取立可被指越候、尤江戸御蔵詰仕廻候節払方過不足可申付候、以

上

辰七月五日

青山藤助

坂井郡三人之与頭

右之御廻状舟寄を参候ニ付後山へ遣し候

七月七日

一金百六拾貳兩貳分銀拾貳匁五分□厘 万立銀二上納仕候

一金貳兩 弘方

一金四兩 友左衛門様を預り金三拾兩辰夏利

内

壹兩 此本金拾兩 三月切質代金

三兩 此本金貳拾兩 六月切かし金

一金貳兩 御同人辰春かり金

内

壹兩三分

壹分

預り申金子之事

合金貳拾兩也

小判也

右者私与下笹岡村去卯之御年貢金之内ニ而御座候、随分無油断致催促候得共、笹岡村之義ハ去年火事ニ逢、別而百姓共困窮仕皆済難仕段紛無御座候、乍然御代官所村々不残御年貢皆済ニ被仰付候処、笹岡村斗御断申上、右之金子延納ニ仕候而ハ自余之障ニ罷成候ニ付、拙者預り手形指上來九月十五日切ニ相納候積り御請仕候、万一御代官所替又ハ如何様之變義出来候ハ、早々拙者方を相納可申候、為其如此ニ御座候、以上

辰七月六日

前谷村与頭

次郎左衛門 印

青山藤助殿

一金九兩三分銀拾壹匁七分四厘

大割二渡  
内割

一金壹兩 吉竹屋半兵衛二渡

但福岡平左衛門殿ニ言伝申候

一金三分銀九匁貳分九厘 諸色詔代彦五郎二渡ス

一金貳分銀六匁貳分六厘 富札代同人二渡

一金壹分銀八匁四分七厘 是ハ正月を六月  
四日迄雜用代同人

外四匁八分年内過二次

三口ノ壹兩三分銀九匁貳厘

但金貳兩 彦五郎ニ相渡し申候

一金貳兩拾貳匁六分壹厘 辰夏取立包賃・勸化共ニ

一金壹兩貳分 八万屋二渡ス

一金三分 田中屋二渡

一銀貳匁 筆之代与四郎

一銀三匁三分 同断六兵衛二渡

一銀壹匁五分 吉兵衛二渡

一銀六匁八分 たちん二渡

右之通方々弘方無相違仕廻候而罷歸り候

一郷藏七月中ニ立申様ニと堅被仰付候

一笹岡村清右衛門・利兵衛・武兵衛、前谷村清左衛門と出入之事立

合為致、相済候様ニと後山茂右衛門方へ織右衛門様御手紙被遣候

二付、茂右衛門方へ遣し申候

一笹岡・重義・十楽・西谷此四ヶ村、南都勸化銀御免被成候ニ付金

子指上不申候



七月八日

同九日

同十日

同十一日

同十二日

一金貳拾兩

預り金

一金六兩壹分銀六匁七分八厘

大津御廻米欠米代

一金五兩貳分銀拾四匁九厘

四ヶ村勸化銀御免

三拾貳兩銀五匁八分七厘

内

金壹分銀拾四匁六分貳厘

人足扶持違二引

金三兩

払方有

金三兩貳分貳匁四分四厘

御廻米追割

金拾兩貳分六匁

村々不足

小以拾七兩貳分銀八匁六厘

拾四兩壹分銀拾貳匁八分壹厘

有金

残

同十三日

一昨十二日笹岡村之人足鯖江へ遣し申候「」酒運上之御手形通

二「」被下候二付(懸力)御手形を返し申候、当春御廻米□□□

銀之御手形遣し申候処、此手形二而ハ無之候、欠米代拾三表之代

金六兩四匁之御手形重而遣し候様ニと被仰遣候、并布目村彦兵衛方の团右衛門様うに遣し申二付為持遣し候、是ハ江戸の被仰越候

二付彦兵衛方へ御詔二候

一織右衛門様年内の村々へ御出被成候日数相改雜用帳認遣し可申候、

雜用銀御払可被成与被仰越候、則此手紙舟寄へ遣し申候

一高五拾石

青野木村庄屋長百姓印

此代金七兩、かし主金津長右衛門、十月切二利足壹割貳分、

織右衛門様御裏判

辰春大津廻米欠米払代銀と廻米入用追割銀与指引之覚

一銀四匁四分八厘

前谷村

内貳匁四分九厘

追割銀

壹匁九分九厘

一銀貳拾八匁五分六厘

笹岡村

内拾五匁八分八厘

追割銀

拾貳匁六分八厘

一銀四拾七匁分壹厘

宮谷村

内貳拾六匁貳分式厘

追割銀

貳拾匁八分九厘

一銀貳拾五匁分八厘

青野木村  
弥次兵衛

内拾四匁七厘

追割銀

拾壹匁貳分壹厘

一銀拾貳匁六分四厘

同村三平

内七匁四厘

追割銀

拾三匁壹分五厘

一銀八匁四分九厘

同村権兵衛

一銀拾三匁九厘

牛山村

内四匁七分三厘

追割銀

内七匁貳分七厘

追割銀

三匁七分六厘

一銀貳匁三分八厘

西谷村

一銀七分

西方寺村

内壹匁三分四厘

追割銀

内三分八厘

追割銀

壹匁四厘

三分貳厘

一銀五匁五匁貳厘

舟津村

一銀拾六匁八分七厘

清王村

内三拾匁六分貳厘

追割銀

内九匁三分八厘

追割銀

貳拾四匁四分

七匁四分九厘

一銀拾四匁壹分四厘

十楽村

一銀拾四匁七分七厘

赤尾村

内七匁八分五厘

追割銀

内八匁貳分三厘

追割銀

六匁貳分九厘

六匁四分九厘

一銀拾九匁貳分五厘

田中々村

一銀六匁壹分六厘

横垣村

内拾匁七分貳厘

追割銀

内三匁四分四厘

追割銀

八匁五分三厘

貳匁七分貳厘

一銀拾貳匁四厘

番田村

一銀五匁八分八厘

井江葭村

内六匁七分

追割銀

内三拾貳匁七分三厘

追割銀

五匁三分四厘

貳拾六匁七厘

一銀拾貳匁三分九厘

重義村

一銀貳拾九匁六分壹厘

国影村

内六匁八分九厘

追割銀

内拾六匁四分六厘

追割銀

五匁五分

右之寄

銀三百八拾壹匁七分八厘

此金六兩壹分銀六匁七分八厘

内式百拾式匁四分四厘

追割銀

此金三兩貳分銀貳匁<sup>(四)</sup>四分四厘

百六拾九匁三分四厘 七月十三日ニ渡ス

右之通村々指引可仕者也

七月十四日

一昨十三日ニ後山茂右衛門方被申越候ハ、笹岡村清右衛門・利兵衛・武兵衛、前谷村清左衛門出入之義当春扱候処、笹岡村清右衛門何角と申承引不仕候処、其後段々申聞候ニ付合点仕候故、当春扱之通立合算用為致候様ニと織右衛門様被仰越候ニ付、当十二日ニ双方呼寄申渡候処、清左衛門方去卯年免式ツ五厘ニハ算用可仕候へ共、去々年刁ノ年免式ツ四分ニハ算用仕間敷と申ニ付、笹岡村之者共ハ去免式ツ五厘ニハ御年貢立打ニ候へハ出入ニも及不申、右も約束之段々御座候ニ付当春御訴訟申上候処、刁年免ニ算用可仕と被申ニ付其通請申由申候、右之品々ニ而相濟不申候間、鯖江へ御断申上候様ニと茂右衛門方被申越候

一舟寄村往還西土手高サ書付、紀州・丸岡・石田三ヶ所之役人中

判形共ニ相濟候ニ付、今日舟寄村之者共ニ相渡し候、定而十郷

組へも右書付相渡可申と存候、就夫彼土手上げつり被致候節、

其方茂右衛門・豊左衛門・太兵衛・武兵衛当分之覚として、土手高サ書付五人へ壹枚宛連印之書付其元へ遣候間、勝手次第右之五人寄合印判消之反古ニいたし可被申候、為其右之書付今日遣候、以上

七月十三日

次郎左衛門殿

茂右衛門殿

杉山織右衛門

右之御書付并右五人立合判形之書物共ニ被遣候ニ付、判形之書物ハ此方ニ預り置、右御書付後山へ遣し申候

同十五日

同十六日

一笹岡村清右衛門・武兵衛・理兵衛と前谷村清左衛門□高出入之義、後山茂右衛門立合算用を為致相濟可申とて、双方後山へ呼寄様子被申渡候処清左衛門方申候ハ、去卯入作免式ツ五厘ニ御年貢相立可申と申ニ付、当春鯖江ニ而清左衛門ニ被仰渡候ハ、去々年貢免式ツ四分七厘ニ御年貢高主共方へ相立候様ニと被仰付、御請申ニ付其段被仰聞候処、右之通相違申ニ付出入相濟不申候間、鯖江へ御断申上候様ニと茂右衛門方断有之ニ付、右之段々委細書付

一笹岡村清右衛門ニ為持鯖江織右衛門様へ指上申候

一大津御廻米欠米拾三表之代金六兩銀四匁、去ル四月十七日ニ藤介様へ指上候処、此度御廻米入用銀不足ニ付、御米壹石ニ付五分ツ

、追割被仰付銀子指上候二付、右欠米代之御手形御書かへ之御用有之候間遣し申様二と被仰越候二付、書状指添之六両銀六匁之御手形清右衛門為持遣し候

一自分義大牧村豊左衛門と対談仕、舟寄二而道之高サ相改書付指上候、仮手形取返し消可申ため今日三国迄罷出候

同十七日

一笹岡村清右衛門鯖江カ罷帰候、織右衛門様御返事二ハ、前谷村清左衛門御呼寄被遊様子御聞可被遊由二而清左衛門方へ御書付被遣候、則清左衛門方へ相渡し申候、次二藤助様福居御出(被力)遊候而、御留守二而我等方カ指上候手形ハ藤助様御請取被遊候由二而、御書かへ手形・御返事共二不参候、当廿五日二友左衛門様酒改二御出可被遊由、口上二而被仰越候

七月十八日

一 大牧村豊左衛門・兵庫武兵衛・野中五左衛門・上関次兵衛・西長田太兵衛三国へ罷出候而、舟寄二而道之高サ書付仮手形之判形消申事成間敷由何れも被申二付、其節五人之与頭共申合候段々申聞候得共、何角と不埒成□□□□申二付、然上ハ布目彦兵衛・後山茂右衛門・吉政武兵衛呼寄候而、其節段々吟味之上二而埒明可申と申二付、右三人之方へ申遣し候

同十九日

一 布目彦兵衛罷出、吉政武兵衛・後山茂右衛門共二気分悪敷由二而平助罷出候、右之段々彦兵衛承届候而、尤消可申筈之書付とハ相聞へ候へ共、御役人様方カ被遣候御書付文談之内二少聞不申候処有之二付、同敷ハ与頭中書付一所二指置申度と申事二候得共、消不申候而不叶判形二候ハ、石田へ御断を申上重而消可申候、夫迄ハ右之書付彦兵衛方へ預り置申由二候、其節塩野藤左衛門様御出二付御内意申上候由、藤左衛門廿二日二石田御帰り被成追付又御出二候間、三左衛門様と御相談被成可被仰聞之由承及候二付相待候

一 右何れも対談之節、中野元右衛門様御出二付□□出二付右之段々御物語仕、鯖江へ御帰之節織右衛門様へ被仰上可被下候ハ、近日是非之落着可仕候間其節委細可申上由申上候

同廿日

同廿一日

一 尾花園右衛門様重義村石出川除之義二付御出被成候而、重義村二御泊り被成候

同廿二日

一 重義村石出普請今日カ仕懸り候て、園右衛門様ハ三国迄御越二候

同廿三日

同廿四日

同廿五日

一御尋者人跡之御書付・御添書共二三通、後山を参候二付請取候

□園右衛門様重義御普請所へ御出被成候

同廿六日

一最前申合候舟寄村道之高仮書付之義二付、茂右衛門・我等両人之手紙布目彦兵衛方へ遣し候、留有

同廿七日

一西方寺・清王・赤尾・横垣・井江葭・国影・舟津・牛山・城・西谷、右拾ヶ村当夏中日照り二付畑方立毛不残日損仕候条、此段御訴訟申上くれ候様二と書付を以被申上候

一重義村畑方金津川之縁二候故年々川欠二成、三十年以来三町八反余川欠二成候間、引高二被仰付被下候様二と度々訴二付、見分いたし川成絵図仕候

一友左衛門様、前谷村清左衛門酒桶符印二御越被遊御泊り被成候

同廿八日

一年五十三女老入

舟津村彦右衛門妻

一年六十三女老入

同武兵衛女

ノ式人

右ハ伊勢参宮仕度候間板取口通手形奉願候二付、御定之通下手形出し申候

同廿九日

一舟津村清右衛門妻を同村仁兵衛理不尽ニ打擲仕候由、清右衛門方を訴出候二付、如何様之子細ニ而我かま、二女を手かけ打擲仕候哉、聞届可申義二候得共、当分御用ニ而三国ニ罷有候間其通二いたし候、一兩日之内宿へ罷帰候ハ、仁兵衛めしつれ庄屋長百姓参候様二と孫右衛門方へ配符遣し申候

八月朔日

一年五十老女老入

舟津村弥次兵衛母

一年五十三女老入

同村彦右衛門妻

一年六十三女老入

同武兵衛母

右伊勢参宮仕候二付板取口通手形添判仕候、此手形八月十八日二返上仕候由、自分判ハ消不申候

同二日

一重義村御普請所へ罷出候

同三日

同四日

同五日

一 最前御尋者兩人之内、正阿弥八郎兵衛義者出候間、残忝人権右衛門不罷出候間、右御書付之通相心得可申由御書付被遣、写有

同六日

一 村々御普請所相改候

同七日

同八日

同九日

同十日

同十一日

一 西谷村庄屋長百姓御用候間、召つれ十三日ニ鯖江へ参候様ニと織右衛門様御書付被遣候二付、其通西谷村へ申遣し候

同十二日

同十三日

一 西谷村之義ニ付権右衛門鯖江へ遣し申候

一金式分

ぬし屋新助ニ可渡心覚

一 銀八匁九分六厘 柿原屋二郎兵衛書出し

覚

前谷組之内舟津・西谷・笹岡・宮谷、右村々当年被仰付候堤川除溜井之さらへ等、不残出来候哉近日相廻改可申候間、明後十五日迄之内ニ田中々村迄手紙を以成共可被申越候、以上

八月十三日

渡辺团右衛門

前谷村二郎左衛門

同十四日

一 右之通团右衛門様被仰越候二付、村々御普請所相改不残相濟候由申上候、但舟津水围六拾五間之所仕立候へハ、其続六拾五間不仕候而ハ悪敷候二付、外六拾五間自普請ニ仕候付、御積り之六拾五間少細候由御断申上候

同十五日

一 権右衛門・西谷村庄屋長百姓鯖江を罷帰候、御用ハ西谷村太郎義御断も不申上候而江戸へ参候事不届之由、江戸を被仰越候旨御書付被遣有之候

一 御尋者之証文指上候

一 源八十三日ハ十五日迄鯖江へ為御見廻遣し候

同十六日

一 松岡様十三日ハ新保へ御成被遊、今日御帰り被為成候由

同十七日

一与下村々庄屋長百姓呼寄候而、皆济目錄之判形取并生魚商売御停止之証文、其外郷藏之事、他国へ参候者之事、申渡し候

一重義村川欠之訴状指上候ニ付請取置候

一団右衛門様村々御普請所仕方御吟味ニ御越被遊候而御昼休被成候

八月十八日

一鯖江へ参候ニ付、井江葭義右衛門・国影新右衛門・舟津清右衛門畑方日損御訴訟ニ同道仕候

一御尋者之内正阿弥八郎兵衛罷出候ニ付、残而權右衛門壹人御尋之由之証文壹通

一捨子并生魚商売停止之証文壹通

一村々皆済状・同帳共

一十村畑方日損訴状壹通

一重義村川欠訴状壹通

一豊左衛門と出入訴状壹通

右之通織右衛門様へ指上申候、豊左衛門との出入之事、最前色々断申候義、布目村彦兵衛嚙之事段々申上候

同十九日

一十郷・舟寄村出入之義往還道土手高相究、五人之与頭共当分之書付印形消申間敷段大牧豊左衛門申ニ付、訴状を以右之段々申上候、

一八藤助様・団右衛門様・織右衛門様・園右衛門様・友左衛門様

御相談之上、拙者共不及書付藤助様を三左衛門様へ御状被遣、其御返事ニ付重而書付指上候様ニとの御事ニ而、昨日指上候書付御

返し被遣候、扱藤助様を三左衛門様へ御状被遣候へハ、当分之書

付ニ候へハ大牧豊左衛門ニ申聞、重而可被仰遣との御返事ニ候故、

我々義ハ一先罷帰り候

一十ヶ村畑方日損之義ニ付三人之共庄屋共罷出、何れも様へ申上候

一織右衛門様御用ニ御出被成候、雑用状判形取指上候様ニと被仰付候

一友左衛門様先月廿七日を同廿九日迄雑用帳指上候様ニと被仰付候

一団右衛門様先月廿五日を昨十八日迄川除御用ニ被成御座候、村々雑用帳指上候様ニと被仰付候

一金式分銀五匁上田嶋代、外八匁着延代銀、指次式分銀拾三匁相済候

一七月十九日之夕を同廿八日之朝迄重義村ニ而園右衛門様雑用手形

相究、廿二日指上可申由

一金壹兩蒲団代

一銀七匁壹分駄賃、三匁三分鮎代

同廿日

一鯖江を罷帰り候

一宗旨御改寺判三組共ニ私宅ニ而廿日・廿一日両日ニ取申候



同廿一日

一 笹岡村利兵衛寺判滝谷寺の先年之通相勤被申候処、今日右利兵衛  
 当春の旦那ヲ切候間、右押候判形を切抜越申様二との手紙を以滝  
 谷寺の断有之二付、当春の旦那御切之義二候ハ、毎年御改之義  
 二候へハ、其段村庄屋方へ何之無御断印形御濟候而、今日二成御  
 断難心得候、併帳面も認申事二候へハ、利兵衛寺請判之義当年ハ  
 其通二可被成候、利兵衛宗門之義二付相違之義有之候ハ、滝谷寺  
 御苦勞かけ申間敷由、庄屋宗左衛門印判手紙二而返事申候

同廿二日

一 当御検見前二郷藏普請仕廻候様ニと村□申渡証文取候

覚

一 銭九百文 御上下式人九泊り、壹泊り壹人二付四拾八文ツ、  
 右ハ当村川除御普請二七月十九日之夕の同廿八日之朝迄、御逗留  
 日数を以飯米代并塩・噌・野菜・薪代御渡遣ニ請取申候、所之相  
 場を以直段御吟味之上勘定仕立、壹人前之積り相違無御座候、所  
 二無之魚鳥并酒一切用不申候へハ、右之外少も入用無御座候、然  
 上ハ此外入用有之由申掠、村中へ割懸候義後日ニ露頭仕候ハ、  
 当人ハ不及申庄屋・長百姓・五人組迄御詮義之上、急度曲事二可  
 被仰付候、以上

辰七月廿八日

重義村宿

加右衛門印

尾花園右衛門殿

右之雑用証文重義村を為持指上候

覚

一 銭壹貫百文 重義村  
 辰七月廿五日の八月七日朝迄川除御用  
 一 銭貳百文 前谷村  
 同八月七日夕の同九日朝迄村々御普請御改

一 銭百文 舟津村

同八月九日夕の同十日朝迄御普請改

一 銭七百文 田中々村

同八月十日夕の同十七日朝迄川除御用

一 銭百文 重義村

同八月十七日夕の同十八日朝迄川除御用

右之通雑用銭村々請取手形判形仕団右衛門様へ指上候

覚

一 銭四百文 前谷村

卯十二月三日夕の同十七日朝迄御年貢御取立

一 銭貳百文 前谷村

辰三月十四日夕の同十六日朝迄御廻米御改

一 銭百文 清王村

五右衛門印  
利右衛門印  
七郎兵衛印

同三月十六日夕お同十七日朝迄右同断

一 銭百文

国影村

同三月十七日夕お同十八日朝迄右同断

一 銭百文

田中々村

同三月十八日夕お同十九日朝迄右同断

右之通雑用銭村々請取手形判形仕織右衛門様へ指上候、右之銭九百文十一月七日ニ請取申候

同廿三日

一 滝谷寺お昨日又使ニ被申越候ハ、利兵衛寺判之義是非共切貫返し申様ニと被申越候由、利兵衛申来候ニ付、則利兵衛を以滝谷寺へ申遣候ハ、一昨日庄屋宗左衛門印判手紙を以御断申談候処、無御承引御印形切貫返し申様ニと被仰越承届候、成程御印形消可申候、然共御用ニ付在辺ニ罷有候間二三日中御待可被成候、御用仕廻罷歸り候節、御左右可申進候間御出可被成候、就夫利兵衛子細候而旦那御切被成との御事、宗門之義ニ付子細有之と被仰候御事聞捨ニハ難成候、利兵衛子細之義書付を以段々可被仰聞候、其上御帳面切貫返し申様ニと被仰越候、此御帳面之義私之帳ニ而ハ無御座候、公儀御帳面之義ニ候得ハ切抜申事難成候、御印形消申義御使僧ニ而ハ難成候間、現住直ニ御出被成候而消申品御見届可被成候と申談候へハ、御返事印形消申とて罷出候事成不申候、福居御用ニも直ニ参候事無之由被仰越候、右使越申候跡ニ又御使僧ニ御手

紙被遣候ニ付、右之段々使僧ニ委敷申談候

同廿四日

同廿五日

一 右滝谷寺申遣し候段々水音へ物語仕候

八月廿六日

一 右之段々水音上林武兵衛ニ物語いたし候へハ、武兵衛方お如何様共下ニ而相済くれ候様ニと水音を以被申越候

同廿七日

一 三国お金津へ参候而、(大宮茂富・福井藩金津奉行)彦右衛門様江戸御立之御暇乞申上候

同廿八日

一 彦右衛門様江戸へ御立御送り申上、夫お御跡仮役海福瀬左衛門様へ御仮役之御悦申上罷歸り候

同廿九日

一 権世二郎左衛門参候而、笹岡村市右衛門義段々断申候

九月一日

一 笹岡村市右衛門義段々聞届候而口書取申候

同二日

一 明三日ニ殿様江戸<sup>の</sup>御着之由、鯖江彦五郎方<sup>の</sup>使ニ而申越候ニ付  
夜通しニ罷出候

同三日

一 舟寄組<sup>の</sup>庄屋五人、後山与<sup>の</sup>庄屋五人、自分与<sup>の</sup>笹岡宗左衛門・  
宮谷義大夫・青野木弥次兵衛、惣名代ニ御迎ニ鯖江へ参候

同四日

一 殿様今庄ニ御泊り被遊今日鯖江へ被為入候ニ付、与頭中ハ今宿迄  
罷出御目見得仕候、坂井郡庄屋共ハ鯖江台へ罷出候

一 辰宗門御改帳团右衛門様へ指上申候、但舟津村之帳之内福井浄善  
寺落判有之ニ付、右之村之帳老冊ハ指上不申候

一 卯年諸遣帳拾九冊团右衛門様指上申候

一 御検見ニ御出御廻り付、鯖江<sup>の</sup>御出□□御泊火打村・牧谷村・下

新庄・戸口中村・猪嶋村・同村<sup>(マ)</sup>・比嶋村・舟寄御泊り、宮領・田  
嶋・川和田村・御油田御休、玄女・里竹田村・南疋田・川上村・

後山村御泊、清滝村・鎌谷・梶・清間御休ミ、伊井御見込、青野  
木村・西方寺村・宮谷・笹岡・前谷御泊り、清王・赤尾・牛山村

御見込、横垣・井江葎御休、国影・舟津、城村・同新家・西谷右  
三ヶ村御見込、十楽・田中々村御泊り、番田・重義ニ而御普請所

御覽被遊候而、中番村渡し舟上へ引上ケ御渡、谷島村へ御移り、

宮前・藤沢右式ヶ村御見込、上新庄・徳分田村・大針村・舟寄御  
泊、北横地・中筋<sup>の</sup>鯖江へ御入之筈、書付指上申候

一 織右衛門様へ雑用帳指上申候

同五日

一 別司村九兵衛と申者悪事を仕候ニ付去々年<sup>の</sup>鯖江牢ニ入罷有候処、  
江戸へ被召寄候ニ付籠ニ入宿次ニ而今日被遣候、就夫何れも与頭

共様子承、与下村々へも申聞候様ニと被仰付候

一 鯖江<sup>の</sup>罷り帰候

同六日

一 青野木村庄二郎と申者、宮谷村清右衛門方ニ奉公仕罷有候処、去  
八月廿五日<sup>の</sup>行方知不申候相断申ニ付、庄屋長百姓口書を取申候

同七日

一 右之義ニ付青野木村九郎兵衛口書織右衛門様迄為持指上申候、留  
書有

同八日

一 右之書付九郎兵衛鯖江へ持参仕候へハ、織右衛門様当六日ニ御検  
見ニ御出ニ付藤助様<sup>の</sup>御返事ニ、欠落人庄二郎義ハ其通ニ候、行

先二而悪事仕出し候共、青野木村并主人清右衛門二無構候との願  
 二候得共、行先二而之品ニを構不申候□□義も可有之由被仰越候  
 二付、弥次兵衛其段申聞せ候、御返事有  
 一舟津村宗門御改帳并团右衛門様当辰中雜用帳其外御用二付、前谷  
 村七兵衛日用二仕鯖江へ遣し申候

九月九日

一 团右衛門様右式通帳御請取之由御返事を取、七兵衛罷返り候  
 一 昨日藤助様御返事之内ニ、舟寄村置土与頭連判之書付何れも立合  
 消申筈ニ相究候、御検見過ニ立合消申様ニと被仰付候

同十日

一 笹岡・宮谷・青野木・西方寺・清王・赤尾・横垣・井江葎・国影  
 ・牛山・舟津迄、御検見道筋見分いたし候

同十一日

一 西谷・十楽・田中々村・番田・重義、見分いたし候

同十二日

一 織右衛門様・久野右衛門様大野郡御検見御仕廻候而當郡御越被遊、  
 後山村ニ御泊り

一 荷鞍馬壹疋、乗鞍馬式疋、人足式人、筵三枚、み壹ツ、壹升ま

す壹ツ、壹合升壹ツ、野境へ為持之庄屋長百姓罷出可申由

一 右御廻り村次後山村御泊、清滝・柵・鎌谷・南疋田・里竹田・玄  
 女・御油田御宿、田嶋・宮領・河和田・伊井・清間・前谷御宿、  
 笹岡・宮谷・青野木・西方寺・清王・赤尾・横垣・井江葎御宿、  
 国影・牛山・舟津・城御宿、西谷・十楽・田中々村・番田・重義、  
 舟渡りニ而谷島、夫々村々御覽被成候而舟寄村御泊

覚

一金式百四拾兩

前谷組

右当辰御年貢金初納割如此候、来十月五日以前急度取立可被相納  
 候、少も油断有間敷候、此廻状早々相廻シ触留を相返シ可被申候

辰九月九日

青山藤助印

渡辺团右衛門印

惣与頭中

右之御廻状舟寄へ村次ニ而遣し候

右初納金組下村々割付之覚

一金三兩壹分

前谷村

一金式拾八兩式分

笹岡村

一金式拾式兩壹分

宮谷村

一金拾式兩式分

青野木弥次兵衛

一金六兩壹分

同村三平

一金四兩壹分

同村権兵衛

一金三分

西方寺村

一金七両三分 清王村

一金八両三分 赤尾村

一金三両式分 横垣村

一金式拾七両三分 井江葭村

一金拾五両壹分 国かけ村

一金三両壹分 城村

一金壹分 新家

一金七両壹分 牛山村

一金式拾八両 舟津村

一金三両 西谷村

一金拾五両壹分 十楽村

一金拾六両三分 田中々村

一金拾式両三分 番田村

一金拾三両壹分 重義村

合金式百四拾両式分

右者当辰御年貢初納金、去卯年割を以取立指上候様ニと被仰付候  
二付<sup>(如)</sup>此二候、但<sup>□□</sup>石二付<sup>□□</sup>両之金子本途米・夫米ニ<sup>□□</sup>付如此  
二候、半分ハ当月<sup>□□</sup>八日切半分、来ル十月五日切と申付候

九月十三日

同十四日

同十五日

一右御兩人様雨天ニ而後山村御逗留被遊候而、今日御出被成御油田  
村ニ御泊り

同十六日

一右御兩人様清間村<sup>〆</sup>前谷村へ御越御泊り被遊候

同十七日

一右御兩人様、笹岡・宮谷・青野木・西方寺・清王・赤尾・横垣・  
井江葭村義右衛門方御泊り

一殿様今日舟寄村へ御着被遊候由

一金式両 国影村へ当座かし

同十八日

一殿様舟寄村<sup>〆</sup>後山村へ御越被遊候而御一宿被遊候

一滝谷寺<sup>〆</sup>使僧ニ而、笹岡村利兵衛宗門寺判切拔返し申様ニと被申

越候ニ付、帳面御急用ニ付御代官所へ指上候之由返事申遣候

一御小検見御兩人城村二郎右衛門方ニ御泊り

同十九日

一殿様後山<sup>〆</sup>御出被遊、清滝・鎌谷村・柵・清間御覽被遊、大雨ニ  
付前谷村へ御入被遊候

一笹岡村利兵衛宗門寺判之義、滝谷寺<sup>〆</sup>何角と被申越候段々团右衛

門様へ申上候、然処へ滝谷寺(古郡年明・鯖江代官)の使僧二而文右衛門様御手代衆へ可

懸御目被申入候得共、团右衛門様御急用御取込二候へハ是二而難

懸御目、御用二鯖江文右衛門陣屋へ御出可有候御申候得ハ、大切

用事二付是二御泊りと承候二付、参申由使僧被申二付、如何様之

御用二候哉と相勤候へハ、右利兵衛義二付参候との申様二候故、

其義二候ハ、福居御用所へ御断之上、御役人衆御断無之候而滝谷

寺直二御越二而ハ尚以被懸御目間敷候、他領何角へ申合候事、其

支配付届を以申義国法二候と申聞候へハ、至極之上使僧被帰候

一 銭六百五拾文 殿様御供雜用代

一 銭三百文 同御昼休同断

一 右御兩人様雨天二而城村二御滞留被遊候

同廿日

一 殿様前谷村御出被遊、北金津・横垣・井江葎・国影・舟津・十楽

・田中々村・番田・重義御巡見被遊、田中々村才兵衛方二御一宿

被遊候

一 伏木五大夫義二付、西谷村五郎右衛門口上書御取被成候、写有

一 銭六百四拾七文 田中々村右御雜用代

一 銭三百文 同御昼休代

右之通兩村御雜用銭壹貫九百壹文、此金貳分銭貳百拾三文請取証

文判形仕候

一 右御兩人様城村の御出被遊谷島村二御泊り

同廿一日

一 田中々村才兵衛方御出被遊、中番村渡し舟の谷島村御移り被遊候  
二 付御暇申請候

一番田村畑之内小松を大分植置候を御覽被遊、如何様之子細二而御  
年貢地二松を植置候と御尋二付、氏神之宮地村中二御座候二付此  
所へかへ申度由二而小松を植置候と申上候へハ、宮地所かへ之事  
百姓私二ハ難成候、御窺を以御下知可請事、惣而有来事改申義無  
御下知而私仕間敷由被仰付候二付奉畏候、此松早々(へカ)こきとらせ可  
申由申上候二付、番田村「一長百姓一申渡し候

一 布目村彦兵衛方へ羽織地壹卷团右衛門様御状被添候二付、自分持  
参仕相渡し候由申上候

一 西谷村伏木五太夫殿、先御代官与兵衛様御支配之節、六年以前亥

十月の西谷村二住宅之所、当御代御替り之節西谷村の御断不申上

候事不届之由、庄屋五郎右衛門口書御取二付、五太夫殿へ参右之

様子申談候へハ、即五大夫殿舟寄村御泊り迄御出被成候而团右衛

門様へ御対談二而、右村之者不念無之由御断被仰達候

一 笹岡村利兵衛と滝谷寺出入之義二付、利兵衛方へ取置候口上書之

写二拙者奥判仕指上候、并最前度々滝谷寺の使僧参候二付返答之

段々書付指上候、次二滝谷寺の拙者方へ被遣候差紙貳通写し指上

候

一 善右衛門・平助・拙者三人被召出、御仕置之段々被仰渡候



一 大文字屋源左衛門方を罷帰候節立寄候様ニと被申越候  
□ 織右衛門様・久野右衛門様、舟寄村宗右衛門方ニ御泊り被遊候

九月廿二日

一 殿様舟寄村御立被遊鯖江へ御入ニ付、長崎之町はつれニ而御暇乞申上候  
一 大文字や方へ参り候へハ、右滝谷寺之義段々被申聞候ニ付、右を之段々申談候而、乍此上下ニ而相済申義ニ候ハ、いか様共利兵衛ニ詫言為仕可申由申聞候へハ、海福瀬左衛門様別而御苦勞ニ被思召候間、如何様共相済申様ニと被申罷帰候

同廿三日

郷藏相改覚

一 萱屋式間ニ式間式尺	前谷村
一 同式間ニ式間半	笹岡村
一 板屋式間ニ三間半	宮谷村
一 萱屋式間ニ式間	青野木村
一 同式間三間	清王村
一 板屋式間ニ式間	赤尾村
一 かや屋九尺式間	横垣村
一 板屋式間式尺三間半	井江葭村
一 かや屋式間式間半	国影村

一 同式間式間	牛山村
一 同式間式間半	舟津村
一 同九尺式間	西谷村
一 同式間式間半	十楽村
一 同式間三間	田中々村才兵衛
一 同式間式間半	同村宇右衛門
一 同式間式間半	番田村
一 同式間式間半	重義村
一 同九尺式間	西方寺村
右之通相改申候	
一 越後国屋彦江高田 <small>を</small> 式拾六里、又今町通りハ式拾壹里、魚見郡ハ蒲原郡 <small>を</small> 奥出羽境之由承及候由申候	

同廿四日

一 村々庄屋中呼寄候而、初納金之事少も無不足来五日切ニ相済被申候様ニと堅申渡し候  
一 御検見之御礼として明廿五日鯖江へ可参と支度いたし候処、織右衛門様を鯖江へ参候事無用ニ候、先々初納金追々取立指上候様ニと被仰越候ニ付、与頭中相止申候

同廿五日

一 初納金割付之半分、当廿九日ニ持参候様ニと村々申遣し候



一 滝谷寺之義ニ付少と罷出候様ニと北金津大文字屋方の申来り候ニ付、今日大文字やへ参候へハ、且那寺之義ニ候へハ利兵衛方の侘言をいたさせ相済申様ニと色々相談ニ付、何とぞ談合も可有事ニ候得共、新保同行共罷出、寺へも其断を申入候ハ、早□相済可申事と申候へハ、其義ニ候ハ、当□<sup>(新)</sup>屋惣兵衛を新保へ被遣候様ニ木村徳左衛門殿へ相談可申由ニ而、自分義ハ用之事有之候而三国へ参候

九月廿六日

一金津新屋惣兵衛ニ三国ニ而御対談いたし候て、惣兵衛ハ新保へ参相談之由、新保惣夢・権六・喜兵衛・久右衛門、七郎兵衛同道ニ而滝谷寺へ参申由ニ而、惣兵衛方の笹岡宗左衛門・利兵衛呼寄申様ニと内意有之候

同廿七日

一 笹岡村利兵衛・宗左衛門三国へ参候ニ付、何も扱之段々申聞せ候

同廿八日

一 利兵衛宗門寺請判之義、滝谷寺判形ニ而御用候故ハ、利兵衛当春過言申上候義者滝谷寺へ御侘言申上、則証文指出し申様との扱ニ而、証文滝谷寺へ相渡し申候、留書有

同廿九日

同晦日

十月朔日

一 中番村竜雲寺且那中と加州棟岳寺出入之義ニ付、扱ニ罷出候得共相済不申候

同二日

同三日

一 村々の御年貢金請取申候

一 十郷と舟寄出入ニ付往還道之高相究候、与頭五人立会之書付之義、十郷与頭共方の返し申問敷と申ニ付御訴訟申上候へハ、御せんきの上右之書付石田の御返し被成候由ニ而、織右衛門様の我等方へ被遣、則鯖江へ指上候書付ハ最前我等方へ被遣候ニ付、式通共ニ我等・後山茂右衛門判形を消、夫の西長田村太兵衛・吉政村武兵衛判形消させ鯖江へ持参可仕候、石田へ被遣候而大牧村豊左衛門判形消させ可申由被仰越候ニ付其通ニ仕、後山村へ織右衛門様御状共ニ右式通之書付遣し申候

同四日

一 御金八拾貳両壹分源八ニ為持鯖江へ遣シ申候

一 丑御年貢之内寅春江戸御廻米入用、先割金を以諸雑用御払被成候而、残金之分此度江戸六倉与兵衛様の被遣候を何も立合割取可申

義二候得共、石田・鯖江御代官様方江戸御立前ニ而取込候ニ付、  
当分右之残金兵庫武兵衛預り罷有候、然共右之残り金・明細帳共  
ニ請取申由江戸江証文指上候間、判形仕遣し申様ニと則武兵衛・  
長田村源左衛門添状仕遣し申ニ付、善右衛門・平助・我等共ニ右  
之証文ニ判形仕、然共残り金請取不申候証拠ニハ、右兩人之添状  
ハ善右衛門方ニ預り置様ニと申遣、則石田方与頭中へハ返状遣し  
申候

同五日

一金八拾貳兩壹分 昨日指上候金子

内貳拾兩 七月七日預り金返上証文消

六拾壹兩 辰御年貢金御手形

壹兩壹分 悪金ニ返り候

右之通指引相済

同六日

一源八鯖江ハ罷帰右指引相済候

一滝谷寺と笹岡利兵衛申分扱ニ而相済申由団右衛門様之御断申上候

へハ、滝谷寺ハ為御礼と使僧鯖江へ参候得共、様子然と聞不申候

由御返事之由被仰越候

一村々ハ御金今日請取申候

十月七日

同八日

一金百貳拾兩

一金六拾壹兩 当月五日之御手形

合金百八拾壹兩 源八ニ為持遣し申候

右之金子通帳ニ付鯖江へ指上候

一右滝谷寺申分相済其節色々御苦勞之由、木村徳左衛門殿へ参候

同九日

一団右衛門様当十一日ニ越後御発足之由被仰越候

一金百八拾壹兩 昨日鯖江へ遣し候金

内壹兩壹分 舟津弥次兵衛上ケ金之由悪金ニ而返ル

百七拾九兩三分 上納金通帳ニ付

右之通源八鯖江ハ罷帰右指引相済

同十日

同十一日

一舟寄村迄参候而団右衛門様越後へ御下り之御暇乞申上候、今日金

津御泊りニ候

同十二日

同十三日

一十五日・十六日兩日之内殿様江戸御発駕之由、鯖江彦五郎方も申越候二付、明十四日鯖江へ可参由何も申合候

同十四日

一鯖江へ参候二付与下村々為惣代宮谷村義太夫・赤尾村伊右衛門・国影村次右衛門・牛山村二郎右衛門・田中々村勘右衛門罷出候処、殿様御立相延十八九日頃之由、後山村新五兵衛鯖江も罷歸り候便り二、福居二而逢候二付相知申候故福居も罷歸り候

同十五日

同十六日

一鯖江へ罷越候村々庄屋中ハ明日被参候様二と申遣し候

同十七日

一昨十六日之明八ツ過る舟津村火事参候由清右衛門・徳兵衛鯖江迄申来り候二付、相改候へハ屋数拾九軒内高持拾壹軒・無高八軒、火本次右衛門、人馬相違無之由口上書指上申候

一宮谷村義大夫・赤尾伊右衛門・牛山二郎兵衛・国影次右衛門・城村二郎右衛門、為惣代御見送二鯖江へ参候

同十八日

一殿様御発駕被遊候二付松森迄与頭共御見送り仕、御暇被下候二付

罷歸り候

一与頭共不残於御陣屋二御料理被下候

一当辰御免状御渡し被遊候、其外来巳ノ年宗門帳・諸遣帳之義段々被仰渡候

辰御年貢・夫米・小物成之覚

一米拾壹石八斗式升九合

前谷村

八分五厘

去免式分上り

米六石九斗六升三合

夫米

銀八拾匁八分六厘

小物成

一米八拾石九斗四升七合

笹岡村

壹ツ三分

去免三分五厘上り

米三拾壹石壹斗四升式合

夫米

銀貳百拾壹匁五分六厘

小物成

一米百六石式斗四升三合

宮谷村

貳ツ貳分式厘

去免壹分七厘上

米貳拾三石九斗三升七合

夫米

銀百六拾三匁分八厘

小物成

一米百八石七斗四升壹合

青野木村

壹ツ七分式厘

去免式分上り

米三拾壹石六斗式升式合

夫米

銀百三拾四匁六分壹厘

小物成

内



四分五厘

去免貳分上

銀七拾九匁八分九厘

小物成

米九石九斗八升四合

夫米

取米合八百拾三石六斗三升

銀五拾四匁

小物成

夫米合

一米百貳拾七石貳斗七升壹合

舟津村

小成銀合  
(物脱)

壹ツ七分九厘貳毛余

去免壹分八厘三毛上

米三拾五石四斗八升七合

夫米

十月十九日

銀百匁四分四厘

小物成

一石田高木三左衛門様御見廻、善右衛門・平助・自分同道二而参候、

一米拾七石七斗五合

十楽村

茶三斤持参仕候

貳分三厘

去免壹分五厘三毛下

米三拾八石四斗九升八合

夫米

一当夏を只今迄之諸事割合仕候二付、宿之義二付与頭中間色々申合候得共不埒二付、面々宿を喰二仕割可仕と申合候

銀七拾匁四分六厘

小物成

一金貳拾四兩壹分上納通帳二付請取

一米拾三石八斗三升八合

田中々村

壹分五厘

去免貳分八厘貳毛下

同廿日

米四拾六石壹斗四升貳合

夫米

一右喰出二仕割可仕由藤助様御聞被成候て、与頭中間悪敷様二相聞候間、彦五郎・門兵衛兩人くし取仕候様二と何れも御役人様方を

銀八拾貳匁五厘

小物成

被仰聞候二付、右兩人鬪取仕候処当年者彦五郎、来夏割者門兵衛

一取なし

番田村

取当り申二付、今度彦五郎方二而盛仕候

去免三分四厘五毛下

米三拾五石五斗壹合

夫米

一割立合之義二付十八日之夕を宮谷義太夫鯖江二罷有候

銀八拾匁九分四厘

小物成

一取なし

重義村

同廿一日

去免三分六厘三毛下

米三拾五石七升五合

夫米

方二泊り候

一自分義手前法事二付断申罷歸り候、福居二而諸色買物二付吉兵衛

同廿二日

同廿三日

一 舟津村火元次右衛門御侘言ニ、同村五人頭式人友左衛門様迄書状指添遣し申候処、御免被成候由御返事被遣候

同廿四日

同廿五日

一 舟津村次右衛門御免被成候との御返事、今日舟津も為持遣し申候  
一 宮谷村義太夫割相濟候而昨晚罷歸り候由、今日申来り候

同廿六日

同廿七日

同廿八日

同廿九日

十一月朔日

一 村々庄屋長百姓呼候而御免之品々其外割方之段々申渡し候、并蠟無之由之証文取申候

同二日

一 織右衛門様・園右衛門様、来巳春御普請所御見分ニ明三日ニ大野郡も舟寄へ御越候由、善右衛門方も被申越候

同三日

一 銀九百三拾匁

此高式万四千六百九拾三石五升

但百石二三匁七分六厘六毛

内

三百拾七匁七分

内三百拾五匁

残式匁七分 不足

三百拾匁三分

内三百匁

残拾匁三分 不足

三百式匁

内三百拾五匁

指引拾三匁過 後山・舟寄も可取分

坂井郡内割

一 銀百六拾匁

内八拾匁

一 銀八拾匁

内四拾匁

一 銀拾七匁九分

一 銀拾七匁壹分

御巡見式御宿り

舟寄村

小検見四泊り

前谷村組

後山村組

手本米入用

舟寄村人足代

後山

組

組

組

組

組

組

組

組

組

組

組

組

ノ式百七拾五匁

此割三ツ割

銀九拾壹匁六分六厘

舟寄組

内九拾七匁壹分

引かへ銀有

内五匁四分四厘

後山お可取分

銀九拾壹匁六分六厘

前谷組

内百貳拾匁

引かへ銀有

内貳拾八匁三分貳厘 後山お可取分

銀九拾壹匁六分六厘

後山組

内五拾七匁九分

引かへ銀有

五匁四分四厘

舟寄へ可渡分

貳拾八匁三分貳厘 前谷へ可渡分

鯖江内割之内宝性院奉加銀

一銀百四拾七匁六厘

舟寄組

内

四拾八匁三分

宝性院

一銀百五拾九匁四厘

後山組

内五拾貳匁貳分貳厘

右同人

一銀百五拾四匁七分三厘

前谷組

内五拾匁八分貳厘

右同人

仙玉割

一金拾兩

此高七万九百九拾五石三斗壹升壹合壹匁

但百石二八分四厘五毛

内

六拾四匁四分

舟寄組

六拾九匁六分貳厘

後山組

六拾四匁七分六厘

前谷組

一銀貳拾四匁三分五厘

坂井郡お階具皆壹口買出し申二付前谷組へ当

十一月四日

同五日

同六日

一織右衛門様・園右衛門様後山村お御越被成候而御泊

一鹿毛才馬才疋

重義村義右衛門

一栗毛才馬才疋

同人

一鹿毛才馬才疋

番田村権右衛門

一糟毛才馬才疋

同人

右ハ板取口手形才枚右兩人へ出ス

一高百才拾石七升七合

青野木村高清王村分

一高百六拾七石九斗九升四合

同村高十楽村分

右之通辰之秋青野木村越高清王村分・十楽村分、如此二相極候由

断二候

一錢九百文、織右衛門様卯暮お辰三月迄度々御泊り雜用钱請取申候



十一月七日

一 右御兩人様、清王・笹岡・重義・番田・田中々村・十楽村右六ヶ  
村御普請所御見分被成十楽村ニ御泊り、重義村ハ馬老疋、番田ハ  
馬老疋、田中々村ハ人足三人、笹岡ハ人足式人、青野木村ハ人足  
老入、右之通遣申候

一 当辰御検見引高証文之案紙、村々水帳寄写指上候様ニと案紙被遣  
候

一 馬老疋舟津村、馬老疋・人足老入井江葭村、人足老入国かけ村、  
人足老入牛山、右御兩人様明八日舟寄迄御越ニ付右之通申付候

同八日

一 右之馬人足ニ而兩人様舟寄村迄御越被成候

同九日

同十日

同十一日

同十二日

一 田中々村宇右衛門庄屋上ケ申度と願ニ付、跡庄屋又十郎ニ被仰付  
被下候様ニと五人頭共訴ニ参候

同十三日

同十四日

同十五日

一 井江葭村来巳春江戸ニ而も敦賀ニ而も上乘奉願候由申来り候  
十一月廿五日切御金割

一金貳両貳分

前谷村

一金五兩

笹岡村

一金四兩

宮谷村

一金四兩

青野木村  
弥次兵衛

一金貳兩

同村五十郎

一金壹兩貳分

同村権兵衛

一金壹兩

西方寺村

一金壹兩

清王村

一金四兩

赤尾村

一金貳兩

横垣村

一金六兩

井江葭村

一金四兩

国影村

一金三兩貳分

牛山村

一金六兩貳分

城村

一金貳分

新家

一金四兩

西谷村

一金六兩

舟津村

一金拾貳兩

十楽村

一金拾五兩 田中々村

一金拾兩 番田村

一金拾兩貳分 重義村

メ百五兩壹分

右之金子当月廿五日切ニ相濟被申候様ニと、庄屋長百姓中へ堅申渡候

同十六日

一村々庄屋長百姓寄合、鯖江大割并組割共ニ相濟申候、則割銀書付、其内夏指引之残・秋中預り銀共ニ書付相渡し、右之内ニ而引取残銀わり被申候様ニと申渡候

(水野勝長)

一能州壱万石水野隱岐守様御旧知、今度旦那御代官所ニ被仰付候

ニ付、郷村為請取我等共十九日ニ爰元発足能州へ罷越候、就夫

ニ各々江可申渡用事有之候間、前谷二郎左・後山平助ハ金津宿

迄出むかい可被申候、金津ニ一宿仕可申候間彼地□□可申談候、

舟寄ハ通かけニ候間立寄候而も可申通候、為其如此ニ候、以上

十一月十六日

小木友左衛門

尾花園右衛門

坂井郡

与頭三人へ

右之御書付舟寄を参候ニ付、後山村へ村次ニ而遣し申候

十一月十七日

一村引高水帳寄写之義并能州御増知御悦として源八鯖(江脱)へ遣し申候  
一宮谷村久右衛門馬落申由ニ而断書持参申ニ付請取置候

同十八日

一銀三百四拾四匁九厘

百八拾匁 但百石ニ七拾八匁五分ツ、

此割

銀四拾八匁九分

笹岡村

銀拾五匁六分七厘

西谷村

銀六拾匁四分四厘

十楽村

銀五拾五匁七厘

重義村

一源八鯖江御用共相濟罷歸り候

同十九日

一金津へ罷出候而園右衛門様・友左衛門様能州へ御越被成候ニ付御

意得候へハ、夫米・小物成銀不残年内中ニ取切、本途之分ハ八分

通郷藏へ相納可申候、其外段々被仰渡、友左衛門様来十日時分御

帰可被成由被仰聞候、其段村々配符ニ而申遣候

同廿日

同廿一日

同廿三日

同廿四日

同廿五日

同廿六日

同廿七日

一村々御年貢金請取申候

同廿八日

一村々御年貢金請取申候

覚

一金九拾三両并上納通帳共二

右之御金槩ニ請取預り申候、鯖江御陣屋持参仕青山藤助様へ指上、

御通帳ニ付相渡し可申候、以上

十一月廿九日

源八郎(印)

一源八十二月罷歸り通帳請取相済

十一月廿九日

覚

一米直段壺石ニ付五拾五匁九分三厘

一塩直段壺石ニ付拾七匁九分九厘

一米千六百五俵

米納村々

是ハ米納村々八分通年内郷藏へ納可申候

一金三百六拾九両壹分拾貳匁三分 米納村々

外五拾九両八匁四分貳厘 田中々村・番田・重義

以上三ヶ村小物成之内五分通残置

是ハ米納村々小物成不残年内取立相納可被申候

一金拾七両壹分貳匁三分四厘 城村金納新家共二

是ハ定金納本途・小物成品々、八分通年内取立相納済可被申候

右ハ当辰御年貢小物成年内可納金辻割遣し候間、其元ニ而日切相

極来月十五日限急度取立相納可被申候、油断有間敷候、以上

斎藤久野右衛門

十一月廿五日

杉山織右衛門

青山藤助

前谷村

与頭二郎左衛門殿

追而田中々村・番田・重義此三ヶ村御藏前入用銀右目錄ニ加不

申候、是ハ重而可申遣候

右之御書状并御添状共二舟寄村々村次ニ而参請取候

同晦日

一牛山村八兵衛、庄屋二郎右衛門と山出入有之ニ付、相庄屋次兵衛

并長百姓中ニ取次くれ候様ニと申候得共、二郎右衛門義ニ候得ハ

取次不申候と申来り候ニ付、次兵衛并長百姓方へ下ニ而相済不申

事ニ候ハ、取次申様ニと申遣し候

十二月朔日

一源八郎鯖江ニ而御役人様御用□□今日鯖江を罷歸り候、御金指上  
通帳ニ付罷歸り候ニ付請取申候

一西方寺村市郎兵衛・細呂木太郎左衛門出入扱被申候様ニと申、十  
樂五十郎・同村又右衛門・宮谷義太夫・清王権兵衛・西方寺村十  
右衛門方へ申遣し、今日何れも出合申筈ニ候

同二日

十二月十二日切残金仕出し

一金四兩

前谷村

一金貳兩貳分

笹岡村

一金壹兩壹分

宮谷村

一金三兩

青野木弥次兵衛

一金貳分

同村五十郎

一金壹分

同村権兵衛

一金壹兩貳分

西方寺村

一金壹兩貳分

清王村

一金四兩

赤尾村

一金貳兩貳分

横垣村

一金五兩貳分

井江葎村

一金貳兩貳分

国影村

一金三兩三分

牛山村

一金六兩三分

城村

一金壹兩

同新家

一金四兩壹分

西谷村

一金五兩半切

舟津村

一金拾壹兩三分

十楽村

一金貳兩三分

田中々村

一金五兩貳分

番田村

一金四兩三分

重義村

七拾五兩半切

内貳分井江葎ニ而引

右八辰年小物成惣立金十一月廿八日迄請取金引取残金如此ニ候、

十二月十二日切二村々へ申渡し候

十二月三日

一宮谷・青野木・西方寺・清王当御年貢入方指引さん用いたし候

同四日

一赤尾・横垣・井江葎・国影・牛山・城・新家・西谷右之通ニ候

同五日

一舟津・十楽・田中々村・番田・重義右同断

一牛山村八兵衛、庄屋二郎右衛門と山出入有之二付訴状指上申度候

故、庄屋次兵衛長百姓中ニ取次被致候様ニと度々申入候得共、取  
次仕くれ申間敷由被申候ニ付断之由申来り候

同六日

米四石 已十月切ニ利足三割

金四両貳分 已六月切ニ利足壹割三分

此質物

上平壹ヶ所 権兵衛

岡宗山壹ヶ所 久兵衛

岡宗山壹ヶ所 久右衛門

右ハ貸主新屋惣兵衛、借主清王村右之者共、自分奥判いたし候

一牛山村八兵衛・同二郎右衛門山出入有之由ニ而八兵衛方ハ訴状指

上申ニ付、庄屋次兵衛・長百姓九郎兵衛・権右衛門取次申ニ付、

訴状請取置申候

覚

一村々諸役懸り物費成義有之由、若不埒成懸り物有之ニをみてハ、

急度御仕置ニ可被仰付旨江戸ハ被仰下候間、面々組下村々当辰年

之懸り物ハ不及申、以来共ニ被致吟味少も疑敷義無之様ニ、村々

庄屋百姓ニも可被申渡候、一錢成共不埒成割方有之与頭仕方不宜

候ハ、穿鑿之上曲事ニ可被仰付候間、万端入念可被申由

一組下村々御年貢金令持参候ハ、何時ニ不限早速請取候ハ、可被

申候、納日極置候面々も有之ニ付、与下庄屋令迷惑候由相聞候間、

村々不致難儀様ニ可相勤候

一与頭給金定之外自分入用与下村々へ割懸被申間敷候、但御用ニ付

鯖江陣屋へ被参候往来駄ちん・はたこ代ハ、委細帳面ニ記置取立可然候

一来正月年始為礼鯖江へ被参候義可為無用候、与下村々庄屋中罷出候者於有之ニハ、急度可遂詮義候間、年始礼ハ不及申常々見廻ニも参間敷旨堅可被申付候

一御用・私用共ニ与下村々へ被参候節、其所ニ無之酒肴ハ不及申ニ馳走請被申間敷候

右之通其筋支配役人尾花園右衛門・小木友左衛門兩人共ニ今度御用ニ付能州へ被参候故如此申遣候、別而坂井郡ハ爰元陣屋へ程遠ク候へハ万端無覚束候、少成共疑敷義無之様ニ心を付大切ニ可被相勤候、此廻状披見之上令承知候旨名之下ニ書付被致印判、順々相廻後山ハ重而相返可被申候、以上

辰 十二月六日

青山藤助印

舟寄村

与頭善右衛門殿

前谷村

与頭二郎左衛門殿

後山村

与頭平助殿

右之御書付舟寄村ハ村次ニ而参候ニ付、印判いたし後山村へ遣し申候

十二月七日

一笹岡村清右衛門・利兵衛・武兵衛と前谷村清左衛門方へ右三人高預ケ申ニ付、去卯年御取ケ、火事人、火事ニ不逢者、他村入作高

と、御取ケ三段ニ納所仕候処、清左衛門右預り高式拾壹石余之分、  
火事高二交り下免之納所可仕と申二付出入ニ罷成候ニ、後山茂右  
衛門・舟寄善右衛門嚙ニ而、清左衛門方々去々刁ノ御免ニ而卯御  
年貢取立候而、其免合之分右三人方へ取申二付、村中之者共へ納  
得為致候而証文取置申候

一 笹岡村当辰年も去年火事ニ付御取ケ御用捨ニ付、去年之通火事人、  
火事ニ不遭者、他村入作三段之御取ケ請可申候哉宗左衛門ニ相尋  
候へハ、其通請申事成間敷旨口上書指上候様ニと申候得ハ、先思  
案をも仕重而口上書可指上由申二付、其通ニいたし候

一 中野元右衛門様寒造酒改・御年貢方御用ニ付、明後九日ニ御越可  
被遊由被仰越候

同八日

一 一昨六日ニ織右衛門様・久野右衛門様へ十楽村之人足ニ而口上書  
を以申上候条々ハ

一 最前御書付ニ而当御年貢取立之次第被仰下候本途米之内、八分  
通郷藏へ米納可申候、御口米之義ハ右之外ニ米ニ而納可申候哉、  
若右八分通之内ニ而御口米御立被下候哉、御下知を得申度候  
一番田・重義・田中々村此三ヶ村、小物成金之内ニ而五拾九両余  
御指延可被下由、殘金急度取立指上可申候

一 十楽村当作、右三ヶ村ニ指而替り申作ニ而も無御座候処、小物  
成金四拾両三分年内取立於申ニハ、百姓四五人高二はなれ其外

も難義仕候間、金拾五両御指延可被下候、此村之義布・こかい(蚕飼)  
も大分仕村ニ候へハ、来春・夏之内取立指上可申候

一 舟津村火事人小物成金五両御指延可被下候、御年貢米之義ハ来  
春御廻米之支ニも成候へハ如何ニ候故、村人ニ申付蔵詰為致可  
申候、右之村も布・こかい大分仕村ニ候へハ、来春・夏之内ニ  
取立可指上由申上候

一口上書之趣青山藤助殿へ申達候処、書面之通尤之旨拙者共々可  
申遣段被申候、口米之義ハ本途八歩之外村庄屋長百姓預り取申  
筈ニ候、則中野元右衛門其辺造酒改御取立御用兼被参候間、諸  
事相窺可被申候

十二月七日

齋藤久野右衛門  
杉山織右衛門

前谷村  
与頭二郎左衛門殿

一 十二月八日取立之内銀五匁分九厘残ス  
一同銀之内拾三匁四分三厘鯖江持参

一 村々割銀・与頭給銀之指引算用仕今日請取申候  
一 卯年組下へ割銀之帳を持、此書付参着次第鯖江へ参候様ニと藤助  
様御廻状被遣候ニ付、夜通シニ罷出九日之明七ツニ鯖江へ参着  
いたし候

十二月九日

一 御陣屋へ罷出候へハ藤助様被仰聞候ハ、江戸御勘定所御年貢之

外万懸り物相改書付、指上候様ニと被仰越候間、当春村々々指上候諸遣帳之表、銀米共ニ銘々書付可指上候間、諸遣帳之表を以相改書付指上候様ニと被仰付候ニ付、改ニ取懸り申候

同十日

一 八日之夜舟寄村之馬ニ而参候へハ、右之馬九日之日逗留いたし今日罷歸候、銀式匁五分鯖江馬宿ニ渡し候

一 右之帳面相改申候

一 中野元右衛門様当御年貢并造酒御改ニ御越被成候而、村々庄屋長百姓被召寄候而段々被仰渡証文御取被成候、留書有

同十一日

一 右元右衛門様今日後山村へ御越被成候

一 鯖江ニ而右之帳面相改申候

同十二日

一 鯖江ニ而右之帳面相改申候

同十三日

一 右之帳面相改今日相濟申候

覚

一 銀四百八拾八匁七分六厘

辰暮鯖江大割

一 銀百五拾四匁七分三厘 同内割銀

内三拾三匁八分七厘、宝性院奉加銀三百匁、右内わりニ仕候得共、宝性院へ直ニ相渡し申ニ付此銀引かへ申候

残百式拾匁八分六厘

ノ六百九匁六分式厘

右之銀子下新村与頭平左衛門ニ相渡可申之処、平左衛門ニ断申鯖江彦五郎ニ預ケ候て手形取置候

一 銀百八匁八分壹厘 御雪垣御用物鯖江彦五郎ニ誂代銀渡

一 銀三匁式分 飛脚彦五郎ニ渡

右之通彦五郎手形取置候

十二月十四日

一 鯖江ニ罷歸り候、此度割帳改日数之旅籠代拾式匁四分彦五郎ニ相渡候、是ハ重而郡中割可成事ニ候

同十五日

同十六日

一 村々十五日切御年貢今日持参候ニ付請取申候

一 村々郷藏納米改ニ権右衛門村々へ遣し申候

同十七日

一 牛山村八兵衛御年貢金三分余相濟不申候由ニ而、年内請合金之内



三分不足仕、庄屋二郎右衛門持参二付八兵衛吟味仕候へハ、二郎右衛門と出入之山手銀をあてめ置候由申二付、出入之義二付御年貢相済申事成不申候ハ、訴状鯖江遣し可申候間持参可仕候、併出入仕候とて御年貢御指延者有間敷由段々申聞候へハ、至極仕御年貢金相済可申由申二付、当廿三日切之請合証文取申候

同十八日

一最前被仰付候諸遣帳当廿五日切ニ認候而指上候様ニと、藤助様御廻状被遣候を後山参候を請取置申候

同十九日

一高四石 田畑・屋敷・山共ニ不残

此代銀貳百八拾八匁四分四厘

右之高来已ハ西迄五年季ニ同村次右衛門ニ預ケ、本物返シニ而請出し可申証文ニ自分奥判いたし候



金四両壹分 西谷村

仮預り手形相渡し申候、此金十二月廿四日指引仕、内壹両壹分かし金之内取申候



金三分 牛山村八兵衛

右之八兵衛庄屋二郎右衛門と出入有之候ニ付、二郎右衛門当御年貢金相渡し申事成間敷由八兵衛申二付、自分方へ直ニ預り置候

一村々郷藏納米相改権右衛門・源八郎罷帰

同廿日

同廿一日

同廿二日

同廿三日

同廿四日

一郷藏納米御口米預り証文判形取申候

覚

一金七拾両貳分 御年貢金

一金貳両半切

内百拾匁貳分五厘 包ちん

拾七匁貳分五厘 ふくいニ而小かい物代

一金壹両

内貳分 八万屋へ相渡可申候

貳分 田中屋相渡可申候

右之通槌ニ預り申候、鯖江参候而指引さん用仕御手形相渡し可申候

源八郎(印)

右ハ源八廿七日ニ罷帰候ニ付、右之金子共不残指引さん用相済申候

一米三石六斗八升、貸主金津米屋太郎左衛門、かり主国影村茂左衛門・次右衛門、已十月切利足四わり、此質物高貳拾石、右之証文

二奥判いたし候

一米式石六斗六升、貸主金津同太郎左衛門、かり主右兩人、巳十月切四割、此質物家式軒、右之証文ニ奥判いたし候

同廿五日

一雲雀鹿毛式才馬壹疋

番田村

彦兵衛

右之馬加州へ払ニ参候ニ付、細呂木口通り手形奥判仕指上候

同廿六日

一後山平助方去暮当暮迄指引算用銀三拾七匁九分四厘、我等方へかり分之由被申越候ニ付、此方指引書付遣し申候ハ

一金壹両

去卯暮請取候

内

五拾式匁五厘

卯暮三組わり、但我等方へ可取分

残

銀七匁九分五厘

余り銀

一銀四拾壹匁三分四厘

辰暮三組割、但後山へ可取分

一銀拾匁

三国ニ而取かへ

一銀式匁五分

大牧へ遣し

一銀壹匁

舟橋ニ而取かへ

メ五拾四匁八分四厘

内

七匁九分五厘

去年残り銀

式拾四匁三分五厘

のりくら代三与わり

拾三匁五分五厘

金津清左衛門へ払

小以四拾五匁八分五厘

残

八匁九分九厘

右之通此方帳ニ御座候、此外違申事失念之義御座候ハ、重而可被仰下候と平助方へ申越候

右之通平助方へ申遣候へハ、平助度々引かへ銀指引目録いたし遣し被申候ニ付、吟味之上相違無之候ニ付平助方へ其段申遣し候

同廿七日

(江腕)

一源八鯖を罷帰、為持遣し候金子指引算用相済申候

一卯年諸遣帳相改藤介様へ指上候へハ、与頭給銀米之訳を立指上候様ニと被仰越、帳面御返し被成候

一当辰御年貢郷藏納米預り証文并御口米預り証文・小物成銀指引目録友左衛門様へ指上候へハ、御請取之由被仰越候

一来春年始御礼之義友左衛門様窺候へハ、藤助様を罷出候事無用之由被仰渡二候へハ其通ニ可仕候、廿日過ニハ御用も可有候間其節罷出候様ニと被仰越候、此段後山・舟寄へも申遣し候様ニと被仰越候

同廿八日

同廿八日

一井江葭村次郎右衛門・国影村次右衛門参候而、牛山村二郎右衛門

・八兵衛出入扱申様最前御申二付、一昨日井江葎二郎右衛門・義右衛門、国影村次右衛門・藤兵衛、加戸村宗左衛門、牛山村次兵衛、其外長百姓共罷出扱候得共相濟不申候二付、断之由被申二付、当年者無余日候間双方へも内々異見可申候間、来春又寄合扱被申候様二と申聞候

一 国影村弥左衛門と申者、四年以前二持高七石余、長百姓藤兵衛・茂左衛門・次右衛門・新右衛門右四人二四年符二預ケ、当年切二候ゆへ弥左衛門方へ同村又左衛門と申者を婿二取、又左衛門代金を出し質物高請出し申度由、弥左衛門右四人へ申候へハ四人申候ハ、又左衛門婿入仕候段沙汰無之候処、俄二左様之事申出候ハ偽り二も候哉、能々聞届高請させ可申候、若外之者を掛組高請可申との事二候ハ、其者之仕候通二右四人可仕由申出候二付、庄屋次右衛門義右証文之判人二も候へハ、弥左衛門・又左衛門兩人之方聞届、婿入二紛無之候ハ、右之四人へ其段申渡、代銀を取高相渡申様二被致候様二と次右衛門二最前申渡候へハ、今日次右衛門断被申候ハ、右之段々又左衛門二申聞候へハ長百姓中左様二被申候処、婿二入候而も可然事御座有ましく候得ハ、婿入仕間敷由申候と断二付、高請させ申間敷ため婿入を妨申品ハ悪敷候間、婿入仕事二候ハ、何とそ取持候而婿入為致、御百姓も相立申様二可被仕候、夫とても不縁二而婿入不仕義ハ無是非候間、其段弥左衛門・又左衛門方へ口上書取置可申由次右衛門二申渡し候

一 笹岡村五郎兵衛持高之内八石余、同村市郎兵衛方二年年季質物二取

置当年切二候処、同村作兵衛を五郎兵衛養子分二仕、右高代金作兵衛方へ出し候て右之高請出し申度と五郎兵衛申候処、市郎兵衛方へ申出候ハ、此高代金も高ク損料有之候間、市郎兵衛孫平之助を養子仕くれ候様二と申二付、村中共二尤之由二而同心仕五郎兵衛二色々異見仕候へハ、平之介養子二仕向後五郎兵衛ハあせち仕筈二而、五郎兵衛養之段々跡式相渡段々、双方納得之連判証文者此方へ取置、両方取替し之証文ハ春中可仕候様二と申渡し候、月廻二而取込候故右之通二候

十二月廿九日

一 来春鯖江御礼二参候事無用之由、後山・舟寄へ申遣し候  
一 国影村弥左衛門参、又左衛門不縁婿入仕間敷と申義乍迷惑是非も無御座候、然上ハ高請出申義も難成候間、此上ハ右四人之衆中へ被仰聞、私二少宛之目をかけられ被下候様二と御申可被下候と申来り候二付、其段重而右四人へ可申候由申聞候  
一 野中村与頭五左衛門方へ上番村渡守去廿二日出火仕及渴候間、右之渡組村々へ内意を申渡守相違様二了簡仕くれ申様二と書状被指越候二付、我等与之内右渡組村々庄屋中へ内意可申之由、返報五左衛門方へ遣し申候

一 笹岡村利兵衛持高六石壹斗余、前谷村清左衛門方へ年年季二質物二入置申二、当年切二候故高請出し申由利兵衛断二参候

一 東長田村源左衛門方へ以書状断申来り候ハ、田中村伊左衛門と前

谷村清左衛門と高出入有之二付、伊左衛門方を訴状指上候へ共年内押詰り申二付、取次申事成不申候二付当分指置候間、春中二出入二及申高八年内切流候など、不被申候様ニ清左衛門相断申様ニと申来り候二付、則庄屋市兵衛を以清左衛門方へ申遣し候へハ、義右衛門市兵衛と同道ニ而参候二付、右源左衛門方へ申来り候段々相断候へハ、承知候由ニ而義右衛門罷歸り候、市兵衛始終承候

一笹岡村称運寺御越候而被申候ハ、同村伊兵衛持高質物ニ取置年季当年切二候処、右之質物証文去年類火ニ而焼失仕候二付、返り証文いたし相渡可申候間、右之代銀を以高請出し申様ニと伊兵衛ニ申候得共、右証文を返シ申様ニと申懸候間相断申由被申二付、其義庄屋長百姓中へも申聞せ庄屋宗左衛門同道ニ而御断可有候、御自分忝人御越候而被仰聞候段難承候由申渡候